



國家總動員會議ニ於ケル各廳
 說明要旨
 貿易關係スル事項
 商工省 寺尾貿易局長官

企總動一〇一五號ノ七ノ二
 昭和十三年五月十九日
 企畫院

事變下ノ輸出振興對策ニ就テ

輸出ノ振興ガ本邦産業經濟ノ發達上極メテ重要ナルニ鑑ミマシテ商
 工省ニ於キマシテモ既ニ以前カラ輸出産業ノ指導獎勵、輸出機構ノ
 整備及海外販路ノ開拓乃至維持ノ爲種々ノ施設ヲ爲シ之ガ活用擴充
 ニ銳意努力シテ參ツタノデアリマシテ昭和七年以降極メテ最近マデ
 其ノ程度ニ多少ノ相違ハアリマスガ本邦貿易ヲ躍進ノ一路ヲ辿リマ
 シタコトハ諸種ノ悪材料ノ錯綜シテ居タ國際經濟界ノ情勢ニ對處シ
 官民一致輸出障害ノ打開ニ努力シタ結果デアルト思ハレルノデアリ
 マス

然ルニ昨年六月支那事變ガ勃發シマシテ以來輸出ハ俄然衰退ノ傾向ヲ顯著ニ示シ始メ本年ニ入りマシテ一層其ノ傾向ヲ濃化シツツアルノデアリマス、支那事變終局ノ目的ヲ達スル爲ニハ國際收支適合ノ範圍内ニ於キマシテ軍需並ニ生産力擴充資材ノ輸入力ヲ増大セネバナナトイコトハ勿論デアリ之ガ爲ニハ輸出振興ヲ圖ルコトガ最モ緊要ト今日輸出貿易ガ斯クノ如ク減少致シマスコトハ誠ニ由々敷問題デアルト思フノデアリマス。而シテ今日ノ輸出貿易阻害ノ原因ハ多々アルト思ハレルノデアリマスガ特ニ現下ノ内外ノ諸事情ニ鑑ミ其ノ主要ナルモノヲ拾ツテ見マスト大略次ノ如キモノデアルト思ハレルノデアリマス、即チ第一ニハ軍需並ニ生産力擴充資材優先ノ方針ニ基キ爲替管理及貿易管理ニ於キマシテ一般平和産業ノ所要物資ノ輸入ガ抑制セラレ資金調整ニ於テモ亦平和産業ガ劣位ノ取扱ヲ受ケテ居ルコトデアリマス

申スマデモナク我國ノ輸出産業ハ所謂平和産業ヲ中樞トスルノデア

リマシテ最近重工業品、化學工業品ノ輸出ガ相當顯著ナ進出ヲ示シ
テハ居リマスガ此等ガ本邦輸出貿易ニ占ムル地位ハマダ極メテ微弱
デアルノミナラズ此等商品ノ仕向先ハ大部分滿洲、支那方面デアリ
本邦ノ輸出産業トシテハマダ其ノ地位ヲ確立スルニ至ツテ居ナイノ
デアリマス、從テ本邦ノ輸出産業ノ中樞ハ輕工業ヲ中心トスル所謂
平和産業デアルノデアリマス、平時經濟ニ於キマシテハ此等輕工業
ノ製品ノ輸出ニ依リ重工業的ニハ後進國デアル本邦ノ重工業資材ノ
輸入ヲ賄ツテ居タノデアリマシテ本邦ノ産業機構ニ於キマシテ輕工
業ト重工業トハ輸出貿易ヲ通ジ密接ニ連結サレテ居タノデアリマス、
然ルニ支那事變ヲ契機トシ戰時經濟ノ態勢ガ進ムニ伴ヒマシテ軍需
優先主義ガ強化サレルニツレ平和産業ハ資金ト物ノ兩方面カラ重壓
ヲ加ヘラレ原料品ノ入手難乃至配給ノ不圓滑、原料品ノ價格騰貴ヲ
生ジ長期ノ先物約定ヲ主トスル輸出商談ハ其ノ成立ガ甚ダ困難ニナ
ッタノデアリマス

第二ニハ國內諸物價ノ昂騰デアリマス、國內諸物價ノ昂騰ノ原因モ種々ノモノガ數ヘラレルノデアリマスガ其ノ主要ナモノハ(1)政府ノ老大ナル豫算ノ施行ニ伴フ購買力ノ激増(2)石炭、燃料等ノ動力費ノ昂騰(3)爲替管理、輸入制限ニ依ル輸入物資ノ價格騰貴ニ隨伴スル國內諸物價ノ昂騰(4)勞働力ノ不足ニ伴フ勞銀ノ値上(5)消費稅、物品稅等ノ引上ニ伴フ消費者ヘノ負擔轉嫁等デアルト思ハレルノデアリマスガ此等ノ原因ガ相俟ツテ國內諸物價ヲ昂騰セシメ延ヒテ輸出貿易ニ對シ重大ナル支障ヲ及ボシテ居ルノデアリマス。殊ニ世界ノ物價水準ハ昨年ノ後半期以來下落ノ傾向ニアルニ對シ獨リ我國ノ物價ノミガ上昇ノ傾向ニアリマスコトハ二重ニ輸出貿易ノ阻害ニナツテ居ルノデアリマシテ現ニ本邦ノ重要輸入品ハ其ノ本國相場ガ我國ノ國內相場ヲ遙カニ下廻ツテ居ル状態デアルノデアリマス

第三ニハ支那事變ニ關聯シテ世界各國デ排日貨ノ運動ガ激化シタコトデアリマス、今次事變ノ爲對支貿易ガ重大ナル打擊ヲ受ケタコト

ハ勿論デアリマスガ、香港、新嘉坡、暹羅、英領馬來其他ノ南洋市場ニ於テ華僑ガ邦品排斥運動ヲ爲スハ勿論今次事變ノ真相ヲ誤解シ蘭印、英印、濠洲、亞米利加、阿弗利加等ニ於キマシテモ相當執拗ナ邦品排斥運動ガ行ハレテ居ルノデアリマス、勿論此等排斥運動ハ漸次終熄スルモノト思ハレルノデアリマスガ目先キ的ニハ本邦輸出貿易ノ重大ナ障害ノ一ツタルヲ失ハナイノデアリマス

第四ニハ米國ノ不況並ニ農業國ノ購買力低下ノ傾向デアリマス。米國ハ本邦輸出貿易ノ第一位ノ市場デアリマシテ米國ノ景氣如何ハ直チニ本邦輸出貿易ノ盛衰ニ重大ナル影響ヲ及ボスノデアリマス、米國不況ノ原因ハ茲テ説ク必要ヲ認メナイノデアリマスガ昨年ノ秋以來勞動者農民ノ購買力ガ甚ダシク減少シテ居リマシテ最近ノ對米輸出不振ノ主要ナ原因ヲ爲シテ居ルノデアリマス

尙世界原料國ハ其ノ產品ガ米國、英國等ノ原料消費國ノ不況ノ爲値下リヲ爲シマシタ爲此等諸國ノ購買力ガ減少シタノデアリマス、本

邦品ハ此等原料國ヲ其ノ重要仕向先トシ且本邦品ノ需要層ハ此等諸國ノ一般大衆デアリマス爲原料國ノ購買力低下ノ影響ヲ最モ強ク受ケテ居ルデアリマス

現下ノ本邦輸出貿易阻害ノ原因ハ以上ヲ以テ盡キルモノデナイコトハ勿論デアリマスガ其ノ重要ナルモノハ大体上述ノ如キモノデアルト思ハレルデアリマス、從テ現下ノ輸出貿易對策ハ結局斯クノ如キ輸出貿易ニ對スル重大ナル壓迫ヲ除去シ若ハ之ガ緩和ヲ圖ルニ在リト思量セラレマスノデ以下少シク現在商工省ニ於テ施設シ又ハ考慮中ノモノニ就キ説明シテ見タイト思ヒマス

一、輸出用原料品ノ輸入許可、爲替許可ハ可及的迅速ニ之ヲ爲スト共ニ輸出製品ト輸入原料トノ連絡密接ナル商品ニ付テハ一定輸出ヲ爲シタル場合之ニ相當スル原料ノ輸入ヲ認メル所謂「リンク」制度ヲ採用シマシテ輸出用原料ノ輸入確保ヲ圖ツテ居ルノデアリマス。現在既ニ實施シテ居リマスモノニ付イテ大略説明致シマスト

(1) 棉花ニ付キマシテハ棉花ガ本邦輸入品ノ首位ヲ占メ且主要輸出品ノ原料タルニ鑑ミマシテ之ガ輸入ニ付テハ出來得ル限り國內民需ニ向ケラルル部分ヲ節約シ輸出向ノ部分ハ従前近リトシテ輸出力ヲ維持増進スル趣旨ヲ以テ棉花ノ輸入数量ヲ定メテ居ルノデアリマシテ節約セララルベキ國內民需向棉花ノ減少ハ綿製品ノ消費節約ヲ勸奨スルト共ニ「ステーブル・ファイバー」等ノ他纖維ノ混用ニ依リマシテ之ヲ補充スルコトニシテ居ルノデアリマス

而シテ棉花ノ輸入總量中一ヶ月三十萬擔ハ不變數量トシテ無條

件ニ輸入許可ヲ爲シ殘餘ハ綿糸布綿製品ノ輸出ノ實績ヲ基準トシテ之ニ一定率ヲ乘ジマシタ金額ノ棉花ノ輸入ヲ許可スルコトニシテ居ルノデアリマシテ所謂不變數量ノ大部分ハ國內民需向、殘餘ハ輸出向ト謂フ計算ニナツテ居ルノデアリマス

斯クシテ輸出向原料トシテ輸入セラレマシタ棉花ガ國內民需向ニ流用消費セラルルコトヲ防止致シマス爲ニ綿關係ノ諸團體ガ縱斷的ニ連絡ヲトリマシテ國內消費ニ流用セララルルコトヲ嚴重取締ツテ居ルノデアリマス。コノ取締ガ效ヲ奏シマシテ輸出向純綿糸、純綿製品ノ國內流入ガ阻止出來マスト輸出引合可能ノ程度ニ値段ガ下落シ海外市場ニ於ケル競争力ヲ強化シ輸出振興ノ上相當ノ效果ヲ期待シ得ルト思フノデアリマス

尙綿糸布、綿製品ノ輸出引合ヲ一層容易ナラシムル爲紡績聯合會ガ中心ニナリマシテ輸出調整機關ヲ作り既ニ諸規約ガ出來上ツテ居リ近々活動ヲ開始スルコトニ相成ツテ居リマスノテ上述

シマシタ棉花綿製品ノ「リンク」制、純綿糸布ノ國內流入阻止策ト相俟ツテ輸出振興ノ所期ノ目的ヲ達成スル上ニ相當ノ效果ガアルコトト思フノデアリマス

右ノ外棉花ノ配給ヲ適正ナラシムル爲棉花輸入統制協會ヲ組織シ棉花ノ輸入及配給ノ統制機關タラシメ又棉花及綿製品（綿糸布）ノ價格ノ不當ナル昂騰ヲ阻止スル爲棉花、綿糸及綿布ニ付キマシテ自治的ニ最高價格ヲ定メシメ市場ノ安定ヲ圖ツテ居ルノデアリマス

(2) 羊毛ニ付キマシテハ羊毛ガ本邦輸入品中重要ナ地位ヲ占ムルト共ニ重要輸出品ノ原料タルニ鑑ミマシテ之ガ輸入ニ付テハ棉花ト同様ニ出來得ル限り國內民需ニ向ケラルル部分ノ節減ヲ圖リ輸出向ノ部分ハ容易ニ之ガ輸入ヲ認ムルコトトシ節約セラルベキ國內民需向羊毛ノ減少ハ毛製品ノ消費節約ヲ勸奨スルト共ニ「ステープル・ファイバー」等ノ他纖維ノ混用ニ依リマシテ之

ヲ補充スルコトニシテ居ルノデアリマス

而シテ羊毛製品ガ輸出セラレマシタトキハ其ノ都度當該製品ニ含マルル毛糸ノ紡績業者ニ之ニ相當スル羊毛ノ輸入ヲ認メ右ノ數量ノ羊毛ハ輸入ノ日ヨリ一定期間内ニ製品ニシテ輸出セシムルコトトシテ居ルノデアリマス

尙羊毛ニ付キマシテハ日濠通商協定其ノ他求償貿易ノ關係ガアリマスノテ其ノ輸入ニ付テ仕出國別ニ考慮シテ居ルノデアリマシテ日本羊毛輸入統制協會ヲシテ羊毛輸入ノ統制ヲ實行セシメテ居ル次第デアリマス

(3) 縞黑檀、豚毛、牛脂及香料（石鹼ノ原料）ニ付キマシテハ豫メ製品ノ輸出計畫ト所要原料ノ輸入計畫ヲ樹テシメ輸出ノ実績ノ如何ニ應ジ輸入許可數量ヲ調整シ間接的ニ輸出増進ヲ圖ラシメテ居リマス

上述シマシタ如ク現在既ニ商品別ニ製品輸出ト原料輸入トヲ聯繫

セシムル政策ヲ相當進メテ居リマスノミナラズ爾余ノ商品ニ付キ
マシテモ可及的ニ本制度ヲ擴充セントスル意圖ノモトニ銳意研究
ヲ進メテ居ルノデアリマスガ輸出振興ノ一日モ忽ニスルコトノ出
來ナインニ鑑ミマシテ商品別「リンク」制度以外ニ全面的ナ輸出
輸入ノ「リンク」制度ニツイテモ亦目下銳意考究ヲ進メテ居ルノ
デアリマス

斯クノ如キ「リンク」政策ノ根本的ナ考ヘハ本邦輸出貿易ノ中樞
ヲ爲ス輕工業ガ一面輸出産業タルト共ニ他面國內産業タルニ鑑ミ
マシテ輸入原料ノ國內消費ヲ抑制シ輸出用原料ノ輸入ヲ確保シ輸
出産業タル部面ヲシテ平和産業ノ一般的劣位カラ脱却セシムルト
共ニ他面輸入上ノ利益ヲ以テ輸出ノ獎勵ヲ爲サントスル意圖ニ基
クノデアリマス

尙輸出用原料輸入確保ノ一方策トシマシテ最近大藏省ト協力致シ
マシテ保稅工場ノ利用ヲ圖ルコトニ致シテ居ルノデアリマス

二、國內諸物價ノ昂騰ハ輸出注文ノ引合ヲ困難ナラシメ邦品ノ海外ニ於ケル競争力ヲ減殺スルニ鑑ミ現在商工省ニ於テハ暴利取締令ノ運用、最高價格制ノ設定等ヲ爲ス他物價委員會ヲ組織シ官民協力シテ物價對策ノ遂行ヲ圖リツツアルノデアリマスガ現下ノ狀勢ニ於キマシテ之ガ實效ヲ早急ニ期スルコトハ容易デナク延ヒテ本邦輸出貿易ニ重大ナル支障ヲ及ボス惧ガアルノデアリマス
依而之ガ對策トシマシテハ輸出單價引下ゲノ爲何等カノ形ニ於イテ獎勵金、補助金等ヲ交附スル要アリヤニ被認ノデアリマスガ斯クノ如キ方策ハ諸外國ニ於キマシテ「ダンピング」等ノ問題ヲ惹起シ易ク對外關係上極メテ機微ナル關係ガアリマスノテ差當リ本邦ノ國産品若ハ國産品ヲ主タル原料トスル製品ノ輸出ニツキマシテ之ヲ實施スル適當ナル方法アリヤ否ヤヲ目下銳意研究シツツアルノデアリマス

三、支那事變ニ關聯スル世界各國ニ於ケル邦品排斥運動ハ支那側ノ巧

妙ナル逆宣傳又ハ時局下ノ本邦財政經濟狀態ノ誤解ニ基ク處ガ極メテ大デアルト思ハレマスノデ

- (1) 關係各廳ト緊密ナル連絡ヲトリマシテ貿易通信員、在外公館、各種貿易團體等ヲ通ジ各種ノ「パンフレット」ヲ配布シ
- (2) 或ハ適當ナル産業團體ヲシテ海外ノ産業團體ト連絡セシメ
- (3) 或ハ又個々ノ貿易業者ヲシテ其ノ取引先ヲ通ジ事變ノ真相ヲ宣傳シ邦品不買ガ結局双方ニ不利益ヲ齎スモノデアルコトヲ強調シマシテ極力誤解ノ一掃、取引ノ正常化ニ努力シテ居ルノデアリマスガ昭和十三年ノ豫算ニ於キマシテハ更ニ外國貿易關係業者招致、輸出貿易促進宣傳、邦商海外施設補助等ノ新施設ノ實施ニ必要ナ經費ヲ計上シタノデアリマス

四、對外國通商交渉ニ付キマシテハ外務、大藏其他ノ關係廳ト協力シ求償的貿易關係ニ在ル國ヨリノ輸入ニ對シマシテハ特ニ考慮ヲ拂ヒ出來得ル限り之ガ輸入ヲ許可シテ輸入制限ニ依リ輸出ノ減少ヲ來サ

ザル様ニ取計ツテ居リマスト共ニ本邦ガ入超關係ニアル國ニ對シ
マシテハ或ハ積極的ニ求償的要求ヲ提示シ或ハ當該國ヨリノ輸入
ヲ他ノ通商政策上有利ナル國ニ轉換スル方針ノモトニ目下銳意研
究ヲ進メテ居ルノデアリマス。又國ニ依リマシテハ爲替精算協定、
支拂協定等ノ締結ヲ爲スコトガ本邦ノ貿易振興上適當ナ場合モア
リマスノデ此等ノ點ニ付キマシテモ目下研究ヲ進メテ居リマスノ
ミナラズ現ニ交渉ノ進涉中ノモノモアルノデアリマス

五、一般的ニ貿易振興施設ニ付キマシテハ既ニ從來ヨリ輸出補償制度、
貿易通信員制度、海外見本市參加、貿易組合ノ共同施設補助、工
藝品ノ輸出獎勵等ノ施設ヲ爲シテ參ツタノデアリマスガ昭和十二
年度ニハ新ニ貿易斡旋所ヲ世界主要貿易都市ニ設ケ、所謂新市場
調査ノ爲調査員ヲ派遣シ海外商社ノ信用調査、貿易練習生ノ派遣
等ノ新施設ヲ爲シタノデアリマスガ時局ニ鑑ミマシテ此等施設ヲ
充分活用擴充スル爲銳意努力シテ居ルノデアリマス

以上ニ申述ベマシタ如ク事變下ノ貿易振興ノ對策ハ極メテ多岐ニ
亘ルノデアリマスガ内外ノ經濟諸事情ハ本邦輸出貿易振興ノ爲必
ズシモ樂觀ヲ許サザル状態ニアルノデアリマシテ之ガ打開ノ爲ニ
ハ産業經濟政策ノ凡ベテノ分野ニ亘リ貿易振興ノ見地ヲ第一ニ考
慮スル必要ガアルノデアリマス
次ニ物資ノ輸入統制ニ付キマシテモ物資毎ニ當業者ヲシテ夫々輸
入統制機關ヲ組織セシメ之ヲ指導シテ輸入數量ノ割當、配給割當
等ヲ實施シテ居ルノデアリマシテ其ノ概要ニ付テハ商工省ノ配付
資料ニ依テ載クコトトシ茲ニハ御説明ヲ省略致シマス



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨
貿易ニ關スル事項
拓務省 植場殖産局長

企總動一〇一五號ノ七ノ四
昭和十三年五月二十三日
企畫院

(一) 輸出増進ニ關スル事項

時局ノ推移ニ伴ヒ軍需關係品及生産力擴充資材ノ需要増大ヲ豫想セララルルヲ以テ輸出ヲ振興シテ輸入力ノ増大ヲ圖リ以テ必要物資ノ調達ニ資スルヲ要スル所外地貿易ニ於テハ外地産品ニシテ直接輸出セララルル數額ハ僅少ニシテ多クハ内地經由輸出セララルル狀況ナルヲ以テ外地貿易ノ實情ニ應ジ輸出貿易増進ニ努メ以テ我國經濟力ノ培養ニ協力シツツアリ

右外地輸出増進ノ爲ニハ左記事項考慮スルコトヲ要ス
/ 求償協定等ノ締結ノ場合ニ於テハ外地産品ノ輸出可能額ヲ考慮ニ入ルルコト

2 所要輸出品原料ノ買付ニ當リ商機ヲ逸セザランガ爲ニ著シキ支障ナキ限リ外地官廳ニ於テ可及的爲替許可ヲ爲スコトヲ認容シ且之ガ必要且充分ナル數量ヲ買付ケ得ル様考慮セラレタキコト

右ノ方法ヲ採ルモ尙輸出品原料ノ内地經由輸入セララルモノ多キヲ以テ之ガ輸入量ヲ考慮セラレタキコト

3 航路補助制度ノ擴充等ニ當リテハ海外航路ノ外地主要港ノ寄港ヲ條件ト爲スコトニ配意セラレ度キコト

(二) 爲替資金ノ増充ニ關スル事項

曩ニ産金法制定セララルヤ外地ニ於テモ之ガ趣旨ニ則應シ朝鮮ニ於テハ制令ヲ以テ朝鮮産金令ヲ制定、臺灣及樺太ニ於テハ産金法ノ一部ヲ施行シ金ノ増産及新産金集中ヲ圖リ以テ爲替資金ノ増充ニ資セリ而シテ産金増加ノ具體的計畫トシテ朝鮮ニ於テハ五ヶ年計畫ヲ樹テ昭和十七年産金目標ヲ七十五匁ト定メ之ガ目的達成ノ

爲探鑛獎勵、鑿岩機設備獎勵、選鑛設備獎勵、金鑛業共同施設獎勵、低品位金鑛石賣鑛獎勵、金山道路ノ改修開鑿ノ速成、送電線網ノ速成、下級技術員ノ養成、熟練鑛夫ノ速成等各種獎勵助長施設ヲ行フト共ニ近ク設立豫定ノ日本産金振興株式會社ニ於テ産金資金ノ圓滑ナル融通ヲ圖ラシムルコトトシ十三年中ニ八十二年ニ比シ四千萬圓ノ増産ヲ目標トシテ努メツツアリ
尙臺灣ニ於テニ昭和十六年産金六萬噸ヲ目標トスル増産計畫ヲ掲テ之ガ目的達成ノ爲探鑛獎勵、選鑛製鍊助成等ノ獎勵施設ヲ講ジタリ

(三) 物資輸入ノ統制ニ關スル件

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ハ支那事變ニ關聯スル非常立法タルニ鑑ミ朝鮮、臺灣及樺太ニ勅令ヲ以テ之ヲ施行シ南洋群島ハ勅令ヲ以テ本法ニ依ルコトトシタリ 仍テ本法ニ基ク臨時輸出入許可規則ニ關シテモ外地ニ於テモ府令又ハ廳令ヲ以テ同

様ノ規則ヲ制定シ内地ニ順應シ輸入ノ統制ニ努メ居レリ然レドモ
外地ニ於ケル諸般ノ産業ハ今尙建設時代ニアリテ時局ニ必要ナル
資源ノ開發、生産力ノ擴充ノ爲ノ必要ナル機械或ハ原材料ニシテ
輸入ヲ要スル物資相當多額ニ上ルヲ以テ之ガ輸入ノ確保ニ關シテ
ハ特ニ考慮ノ要アルモノトス



國家總動員會議ニ於ケル各總說
明要旨
運輸ニ關スル事項

鐵道省 森本鐵道調査部長

企總動一〇一五號ノ八ノ二

昭和十三年五月十八日

企 畫 院

陸上輸送力ノ確保充實ニ關スル事項

一、鐵道輸送力ノ擴充

(イ) 鐵道輸送力ノ重要性

鐵道ハ平時ニ於テハ、産業交通ノ動脈デアリ、又戰時ニ於テハ作戰ノ一部ヲナスモノデアリマシテ、總動員計畫ノ上カラ見マシテ、非常ニ重要ナ一部門ヲ占メル事ハ申ス迄モアリマセン。又生産力ノ擴充ヲ考ヘルニツイテ必然的ニ考ヘラレナケレバナラナイ一部門デアリマス。更ニソノ輸送力ノ不足ハ物價騰貴ヲ助長スル傾向ノアル事モ事實デアリマス。

(ロ)

然ラバ國有鐵道輸送力ノ現狀、如何トイフ問題デアリマスガ我ガ國有鐵道ハ昨年七月支那事變突發以來、内地ニ於ケル動員作戰輸送及軍需品輸送ノ大部分ヲ擔當シ、更ニ大陸作戰ニ協力スル爲ニ、相當多數ノ車輛、器材及専門的從事員ヲ轉出、派遣致シタノデアリマス。其ノ爲一般輸送ニ振り向ケラレル車輛ノ減少ヲ來シタノデアリマス。

之ガ對策トシテ車輛ヲ極端ニ迄酷使スル外ニ、臨時ハ勿論、定期旅客列車迄取消シ、之ニ依テ車輛ヲ生ミ出シ、以テ貨物列車ノ増發ニ當テタノデアリマス。併シ御手許ニ差上ゲマシタ別表(1)ニ示シマス通り、貨車ダケニ付テ昭和十二年度ヲ見マシテモ、其ノ増備ハ對前年一、四四九輛、即チ約二%増ニ過ギナイノデアリマスガ之ニ對シテ貨物廬秆ノ増加ハ二十五億六千萬廬秆即チ約一六%増デアリマスカラ、仲々追付カナイノデアリマス。昨年末ニ到ツテハ遂ニ一日約二十萬廬ノ運

ビキレナイ貨物即チ滞貨ヲ見ルニ到リ、爲メニ少ナカラズ御
迷惑ヲカケタノデアリマス。
ソノ原因ノ一ツハ、船舶ノ徵用ニヨル、海上貨物ガ鐵道ニ轉
嫁シタ爲デアリマス。青森函館間航路ノ如キハ、事變前ノ約
二十倍近イ輸送申込ヲ受ケテ居ル實情デアリマス。原因ノ他
ノ一ツハ、云フ迄モナク國有鐵道ノ設備ニ充分ノ餘裕ガナカ
ツタ事デアリマス。大體我ガ國有鐵道ハ「持タザル鐵道」ノ
代表的ノモノデアリマシテ、車輛ニツイテ見マスルニ別表(2)
及ビ(3)ニ示ス通り、昭和三年度ニ於キマシテ貨車ハ英國ノ五
倍、伊太利ノ二倍半、獨逸ノ二倍、客車ハ英國ノ三倍、獨逸
ノ二倍半ノ効率ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス。ツマリ、物ヲ少
ク持ツテ、人力ヲ物ヲ活用シテ來タ鐵道デアリマス。而モ昭
和九年度以降益々車輛ガ不足シテ參ツタノデアリマスガ其ノ
實狀ハ、別表(4)ガ有力ニ物語ツテ居ルノデアリマス。之ハ車

輛、線路等ヲ増備スベキ鐵道改良費ガ、別表(5)ニ示シマス通
リ、昭和二年度ノ一億七千萬圓ヲ最高トシ、其後ハ低調ヲ續
ケ、昭和五、六、七、八、九ノ此ノ五箇年ノ如キハ、殆ンド
改良増備ニ見ル可キモノガナカッタ結果デアリマス。此ノ改
良費ノ減少ハ、申ス迄モナク、營業收入及(別表(6))益金率
ノ減少ニ基クモノデアリマシテ、昭和七年ノ如キ收入僅カニ
四億二千萬圓トナルニ至リマシテハ、資本投下ヲ極力抑制ス
ルノ外ハナカッタデアリマス。其後收入、益金率、共ニ上
昇ニ向ヒ、昭和十二年度ハ約六億五千二百萬圓ノ收入ヲ擧ゲ
得タノデアリマスガ、一般會計へ三千萬圓ノ繰入ヲ行ツタ爲
ト、物價騰貴ニヨル營業費ノ増大ノ爲ニ鐵道改良費ハ漸ク一
億ヲ越ス程度ニ止マツタデアリマス。ソノ結果ハ前ニ申シ
マシタ通り車輛ノ不足トナリ、更ニ線路容量ニ於テモ非常ナ
不備ヲ來シ、單線區間四十往復ノ標準ヲ突破スル區間一〇餘

(ハ)

ニ上ル現状ニ至ツタノデアリマス。

ソノ對策

今日ノ、輸送力ノ逼迫ハ、今申上ゲマシタ通り、因テ來ル所ガ遠ク且深い譯デアリマスガ、斯ノ如キ貧弱ナ設備ト車輛トヲ擁シテ居リマスガ故ニ、國家總動員ニ對應シ、更ニ生産力擴充計畫ニ對應シテ、産業ノ動脈タル使命ヲ全ウスル具體策ヲ樹ツルコトハ、一日モ忽セニ出來ナイ次第デアリマス。ソコデ我々ハ先ヅ車輛ニ對シテ擴充四箇年計畫ヲ立案致シタノデアリマス。線路及停車場竝ニ船舶ニ對シテハ目下立案中デアリマス。

車輛ニ對スル分ハ別表ノ(7)デアリマシテ、約七億圓ヲ要シマス。之ハ一見甚シク厯大ノ様ニ見ユマスガ、客車ヲ抑壓シテ貨車ニ重キヲ置キ、豫想運輸數量ニ對シテハ、車ヲ相當ニ窮届ニ使用シテ居ル昭和十年程度ノ車輛保有割合ニヨルモノデ

アリマシテ、寧ろ内輪ニ見積ツタモノデアリマス。從ツテ之
丈ノ車輛及之ニ對應スル線路停車場ノ設備ヲ整ヘマシテモ、
一朝有事ノ際ニハ、相當一般旅客貨物ノ輸送ヲ管制シナクテ
ハナルマイト考ヘテ居ルノデアリマス。從ツテ若シ此ノ計畫
ガ實行サレナカツタトシマスナラバ、國有鐵道ノ輸送力ハ非
常ナル破綻ヲ來シ、生産力擴充計畫實行ノ上ニモ、亦物價維
持ノ上ニモ、非常ニ大キナ影響ヲ與ヘル惧ガ多分ニアルト考
ヘラレマスノデ、資金計畫ト資材計畫ノ兩方面ニ對シテ大イ
ニ、頭ヲ悩シテ居ル次第デアリマス。又ココニ御注意願ヒ度
イコトハ、鐵道ハ一般ノ生産力擴充ニ追隨スルモノデアリマ
ス。而シテ鐵道輸送力ノ擴充ハ一朝一夕ニ能クスル所デア
リマセン。工事ヲ完了スルタメニハ相當ノ長時日ヲ要スル事
デアリマス。デアリマスカラ、生産力擴充計畫ノ具體的內容
ヲ、成ル可ク早い時期ニ於テ御示シヨ願ヒ、其後ノ變更ハ固

ヨリ、時々計畫ノ具體化ニツレソノ詳細ヲ指示シ願ツテ、輸
送力擴充ノ準備時間ヲ與ヘテ頂カナイ事ニハ、鐵道ト致シマ
シテ、輸送ノ責任ヲ果シ得ナイ結果ヲ生ジナイトモ限ラナイ
コトデアリマス。關係各廳ニ於カレマシテモ此邊篤ト御理解
ノ上、充分ノ御援助アラシコトヲ希望致シマス。
コノ四箇年計畫ノ第一年ヲ爲ス昭和十三年度豫算ハ如何ト申
シマスルニ、六億九千萬圓ノ營業收入ヲ見込ミマシタガ、改
良費ハ依然一億四千五百萬圓ニ過ギズ、四箇年計畫ノ第一年
度トシテハ、甚ダシク貧弱ナリト云ハザルヲ得マセン。之ハ
一ツニハ臨時軍事費ヘノ繰入四千萬圓ノ資金ニ抑ヘラレ、他
面ニハ物資動員ニ對應スル資材節約ノ爲ニ、斯ノ如キ程度ト
ナツタノデアリマスガ、明年度以降ニ於テ、深甚ノ考慮ヲ要
スルモノト考ヘテ居リマス。豫算ノ大要ハ、御手許ノ印刷物
ヲ御覽願ヒ度イノデアリマスガ、聽舍、旅客設備、軌條更換

(二)

等ヲ忍ビ得ルモノトシテ之ヲ削減シ、車輛殊ニ貨車ノ増備、石炭其他主要物資ノ増産計畫ニ對照スル線路其他ニ全力ヲ注イダノデアリマス、地方鐵道ノ輸送力

只今マデ申上ダタノハ國有鐵道自體ニツイテデアリマシタガ地方鐵道ニ於テモ、各種増産計畫ノ進行ニ伴ヒ、物資及工場從事員等ノ輸送量ハ相當増加シ、車輛線路ノ増備ヲ要スルモノガ多イノデアリマスガ車輛製作能力ノ不足、資材ノ獲得難ノ爲、充分ナ擴充ガ行ハレテ居リマセン。國有鐵道及自動車ト關聯シテ研究シ、必要アルモノニ對スル擴充計畫ヲ、速カニ樹立シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス。

尙茲テ海陸連絡設備ニ付テ一言致シマスレバ鐵道省トシテモ海陸連絡設備ニツキマシテハ、(後ニ内務省カラモ御説明ガアリマセウガ)之ヲ度外視シテハ、陸上輸送ヲ考ヘ得ナイ部分ガ多イノデアリマシテ、重要港灣ニ於ケル臨港設備ハ、關係

各廳ト協議致シマシテ計畫ヲ進メテ居リマス。就中石炭積出港ニ關シテハ、ソノ増産計畫ニ對應スル、擴充計畫ノ一部ヲ本年度豫算ニモ、計上シテ居ル次第デアリマス。

二

自動車ノ保有量及生産力擴充
徵發其他ニヨル自動車數ノ減少ニ伴ヒマシテ、自動車輸送能力ノ不足ハ相當程度ニ上リ、自動車ノ保有量、竝ニ其ノ生産力ノ擴充ノ必要ヲ痛感シ、目下之ガ對策ヲ研究中デアリマスガ、ソノ根本的要素ヲ爲ス、燃料ノ點ニ關シ國策ノ方向ガ強度ノ統制節約ニ向ツテ居リマスコトハコノ問題ノ處理ニ相當ノ困難ヲ感ズル次第デアリマス。

三

小運送ニ關スルコトデアリマスガ
小運送問題ノ重要性ハココニ説明ノ煩ヲ避ケマスガ、從來自由營業デアツタ爲ニ、資力信用薄弱ナ業者ガ簇生シ、其間何等ノ統制モナク、小運能力確保ノ上ニモ遺憾ノ點ガ多カッタノデア

四

リマス。之ニ對シテ小運送業法ヲ制定シ、小運送業ヲ免許營業トシ、不當競争ノ防止ト、小運送業ノ内容ノ改善充實ヲ圖ル事トシタノデアリマス。又同法ガ昨年十月一日實施サレルト同時ニ、半官半民ノ日本通運株式會社ヲ設立シテ、小運送業ノ助長改善ニ必要ナル事業ヲ營マシムル事トシタノデアリマス

物資動員デアリマスガ

物資動員關係ニ於キマシテハ、主管ノ自動車運輸事業及運送事業ニ對シテ、ガソリン節約上通牒其他必要ナル措置ヲ講ジ、鐵鋼統制協議會ノ第四分科會ノ主査ヲ擔當致シテ居リマス外、國有鐵道自體ニ於キマシテモ、鐵、鋼、ガソリン、木材其他ニツキ、關係各嚙ト連絡ノ上、充分ナル協力ヲ致シテ居リマス事ハ、先刻御承知ノ事ト存ジマス。

五

防空法關係

防空關係ニ於キマシテハ

内務省並陸海軍省等ト共同シテ燈火管

六

制規則ヲ制定致シマシタ外、國有鐵道自體ノ重要地域ニ對スル
等制施設ノ費用トシテ二百五十二萬圓、車輛燈類ノ遮蔽工事費
トシテ五十萬圓ヲ計上致シマシタ。

交通調整法

交通機關ハ未ダ發達セザル時期ニ於テハ、自由競争ニ委ネテ一
日モ早クソノ普及發達ヲ促ス可キデアリマスガ、我國ノ現状ヲ
見マスルニ、或地方ニ於テハ、已ニ交通機關ノ濫立ヲ來シ、二
重投資ノ弊ヲ見ルニ至ルモノガアリマス。之ヲ統合調整シ、交
通機關ノ堅實ナ發達ヲ圖ルガ爲ニ、交通調整法ノ制定ヲ見タ次
等デアリマスガ、關係官廳ト協力シテ目下關係勅令ヲ立案中デ
アリマシテ、大體六月一日カラ實施ノ豫定テ居リマス。

最後ニ

七

調査部ノ擴充ニツイテ
鐵道調査部ハ國有鐵道自體ノ總動員計畫設定業務ヲ遂行スル爲

六

昨年度新設致シタノデアリマスガ、日滿ヲ一體トスル生産力擴充計畫ノ進行ト、支那事變突發以後ノ狀勢ハ、日滿支一貫輸送計畫ノ急速樹立ヲ必要トスル現狀ニ鑑ミマシテ本年度ヨリ調査部ヲ更ニ擴充致シマシタ次第デアリマス。



國家總動員會議ニ於ケル各廳説明要旨

運輸ニ關スル事項

内務省 安藤土木局長

海陸連絡輸送ニ關スル事項

| | | |
|---|-------------|--------------|
| 企 | 昭和三十二年五月二十日 | 企總動一〇一五號ノ八ノ二 |
| 畫 | | |
| 院 | | |

一 總論

四面環海ノ我が國情ニ鑑ミマシテ港灣ニ於ケル海陸連絡輸送設備ノ整否故ニ之ヲ利用ノ便否ガ産業貿易ノ進展上又軍事國防上重要ナル關係ヲ有シマスルコトハ申スマテモ御座イマセン、内務省ニ於テハ從來コノ見地ニ於テ、重要港灣ノ修築、地方港灣ノ修築助成ニ盡力シテ参リマシタコトハ勿論、修築竣成後ニ於ケル港灣設備ノ管理經營ニ關シマシテモ努メテ利用上ノ便宜ヲ考慮シ能フ限リ之ガ統制ニ力ヲ致シテ居ルノテ御座イマスガ、支那事變ノ發生ニ伴ヒ各地ノ港灣ガ相當大規模ニ軍事輸送ニ使用セララルト共ニ一段貿易ノ内容ニモ顯著ナル變化ヲ生ズルニ至リマシタノテ取敢

ヘズ各土木出張所及地方廳ヲ督勵シテ應急的ニ各般ノ對策ヲ講ジ
テ、軍事輸送ニ支障ナカラシムルト共ニ努メテ軍需ト民需トノ調
和ヲ圖ツタノテ御座イマス、然シナガラ、事變ハ今春以來第二段
階ニ入り其ノ長期戰タルノ色彩愈々濃厚トナリマシタノテ、先ツ
昭和十三年度豫算ニ於キマシテハ、主トシテ支那事變ニ關聯シ日
滿支一體ノ經濟體勢ノ樹立ヲ目標トシテ緊急缺クベカラザル施設
豫算ヲ計上致シタノテ御座イマスガ、將來更ニ之ガ體勢ノ徹底強
化ヲ圖ルノ必要ガ御座イマスコトハ申スマデモナク、更ニ現下ノ
緊迫セル國際情勢ニ鑑ミマスレバ、所謂生産力擴充ノ基礎的施設
トシテ各種ノ方策ヲ考究スルノ要極メテ緊切ナルモノアルヲ痛感
致シテ居ルノテ御座イマス

以下

- 一、支那事變當面ノ措置
- 二、昭和十三年度豫算

三 現下ノ時局ニ對處シ特ニ考慮シツツアル事項
四 港灣利用ノ調整

ノ四項目ニ分ケ、内務省ノ事變對策竝ニ將來ノ方針ニ就テ御説明
申上ゲタイト存ジマス

二 事變當面ノ措置

(一) 軍事輸送關係

先ツ第一ニ事變當面ノ措置ヲ御座イマスガ、今次事變ノ發生以
來軍隊竝ニ軍需品輸送ニ使用セラレタ港灣ハ相當多數ニ上ルノ
テ御座イマス、其ノ内神戸港、大阪港、門司港、下關港、廣島
港、東京港、長崎港、坂出港等ノ如キハ、最モ頻繁ニ使用セラ
レタノデアリマスガ、此等ノ諸港ハ何レモ從來多年ニ亘リ整備
擴充ニ努力シテ參リマシタ港灣設備ヲ克ク其ノ機能ヲ發揮致シ
マシテ、軍事輸送上相當ナル成績ヲ擧ゲテ居ルノテ御座イマシ
テ、殊ニ神戸港ノ如キハ豊富ナル繫船岸壁ト臨港鐵道、起重機

其ノ他ノ陸上設備ノ利便ト相俟ツテ極メテ優秀ナル輸送成績ヲ示シタノデ御座イマス

然シナガラ、軍事輸送ニ使用シタル此等ノ港灣ニ於キマシテモ、現在ノ施設ヲ以テシテハ十分ナラザルモノモ尠クアリマセンデシタノデ、現在工專中ノ設備ノ進捗方ヲ極力督勵致シマシタコトハ勿論、臨時棧橋ノ架設等應急的施設ヲナシタルモノモ御座イマス、尙之ニ關シテ、工專認可等ノ手續ニ付事務簡捷ヲ圖ツタコトハ申スマデモ御座イマセン

更ニ、港灣設備ノ利用上、解船及仲仕人夫ノ供給潤澤ナルヲ要スルハ勿論デ御座イマスノデ、コノ點ニ關シマシテモ十分意ヲ致シタ次第デ御座イマスガ、解船業者、仲仕人夫等ニシテ事變ノ爲應召出征シタル者モ相當アツタノデ御座イマスガ、幸ニシテ、軍事輸送上之ガ供給ニ支障ヲ來タシタ事例ハ殆ドナイ様デ御座イマス

尙港灣ニ關スル行政ガ各省ニ分屬シ、同一施設ノ使用ニ付キマシテモ、二三ノ手續ヲ要スル場合モ存スル關係上、從來之ガ利用上ノ便宜増進ノ意味ニ於キマシテ、港灣行政統一ノ要望ガ相當熾烈ニアツタノデ御座イマスガ、事變發生以來官民各方面共國家總動員ノ趣旨ニ則リ、一致團結シテ港灣ノ機能發揮ニ協力致シマシタ結果、軍事輸送上大ナル支障ヲ生ズルコトモナク今日ニ至ツテ居ル様ニ思ハレルノデ御座イマス

(二) 軍事輸送ノ産業貿易ニ及ボシタル影響

以上軍事輸送ニ使用セラレマシタ港灣ニ付テ極ク概略ヲ申上ゲタノデ御座イマスガ、最モ頻繁ニ使用セラレタ神戸、大阪、門司等ノ諸港ニ於キマシテハ、一般船舶ノ出入碇繋並ニ一般貨物ノ場卸、保管等ニ相當ノ影響ヲ及ボシタコトハ之ヲ否ム譯ニハ參リマセン、勿論事變發生以來對支貿易ノ減少シ或ハ杜絶セル向モアリ、或ハ御用船關係ニ依リマシテ一般船腹ノ著シク減少

致シマシタコトモ原因シ、更ニ或ハ貿易統制ニ關ナル方策實施ノ結果ト致シマシテ、各港共一駁出人貨物ニ相當顯著ナル變化ヲ來シ、其ノ數量ニ著シキ減少ヲ見タルモノモ必ズシモ尠クハナイノデ御座イマスガ、臺灣ヲ一體トシテ其ノ利用狀況ヲ綜合達觀致シマスレバ、接岸設備ノ不足、泊地ノ狹隘ヲ痛感シ、或ハ臨港地ノ上屋、倉庫等ノ利用意ノ如クナラズシテ、荷捌ニ滯留ヲ來シ、産業貿易ノ進展ニ相當ノ影響ヲ受ケタ向モアルヤニ存ゼラルルノデアリマス

(三) 軍事輸送關係以外ノ港灣ノ狀況

尙直接軍事輸送ニ使用セラレザル一般港灣ニ於キマシテハ、事變ニ關聯シ、木材、石炭其ノ他ノ物資ノ移動、俄カニ増加シ、港勢著シク進展シツツアルモノモ相當多數見受ケラレルノデ御座イマス、事變發生以來ノ各港貿易ノ詳細ナル統計ハ未ダ手ニ致シテ居リマセンガ、大體以上ノ如ク申上グルコトガ出來ルカ

ト存ズルノテ御座イマス

三 昭和十三年度ノ豫算

次ニ、昭和十三年度ノ港灣關係豫算中洞海灣綜合計畫ハ八幡戸畑兩港竝ニ航路改良費二百四十萬圓、下關港九十萬圓、門司港三十萬圓、關門海峽改良費二十萬圓、博多港六十六萬圓、神戸港五十五萬圓、大阪港三百五十萬圓、名古屋港百三十二萬圓、廣島港十七萬二千圓、宇部港二十二萬四千圓等ハ時局ニ鑑ミ特ニ重要ナルモノト申スコトガ出來ルカト存ジマス、本年度ノ既定ニ屬スル重要港灣十八港ノ改良費ハ、今次事變ニ伴フ國庫財政ノ都合ニ依リ大體ニ於テ相當額ヲ後年度ニ繰延ブルノ止ムナキニ至ツタノテ御座イマスガ、下關港、博多港及ヒ洞海灣綜合計畫ハ時局ニ鑑ミ緊急施設ノ必要アルヲ認メマシテ、特ニ繰延ヲ行ハズ、又、門司港内國貿易設備地帯ノ擴築費ハ新規ニ之ヲ計上シ關門海峽改良事業モ繼續シテ施工スルコトト相成ツタノテ御座イマス

四 時局ノ進展ニ伴ヒ特ニ考慮シツツアセ事項

次ニ、時局ノ進展ニ伴ヒ之ニ對處シテ港灣行政上特ニ考慮ヲ要ス
ト考ヘラルル事項ニ付一言致シタイト思ヒマス

(一) 日滿支一體ノ港灣政策ノ遂行

第一ハ日滿支一體ノ港灣政策遂行ノ必要ヲ御座イマス、茲ニ滿洲國ノ獨立ヲ見マシテ日滿一體不可分ノ關係ヲ確立セラレタリテ御座ヤマスガ、今次事變ノ進展ニ伴ヒ北支、中支ノ事態一變シ、今後更ニ戰果ノ擴大ニ伴ヒマシテ、日滿支一體ノ經濟プロツクノ確立ニ依リ北支、中支ノ振興、開發ヲ圖ルノ要極メテ緊切ナルモノガアルノテ御座イマスガ、コノ情勢ニ對應シテ、我が國ノ港灣政策モ再檢討ヲ必要トスルモノト存ジマス、此ノ日滿支一體ノ經濟政策ノ見地ヨリ致シマシテ、關西方面並ニ日本海方面ノ諸港ノ如キハ特ニ重要ナルモノト存ジテ居ルノデアリマス

(二) 重要物資増産計畫ニ伴フ港湾修築

第二ハ、重要物資増産計畫ニ對應スル港湾修築ノ問題テ細座イマス、政府ニ於キマシテハ現下ノ非常時局ニ對應シ、鐵、石炭其ノ他ノ重要物資増産計畫ヲ企圖シ、且ツ實施致シテ居ルノテ細座イマスガ、此等ノ重要物資増産計畫ヲ圓滿ニ遂行センガ爲ニハ之ガ輸送能力竝ニ荷役能力ノ整備ヲ圖ルノ必要ガアルコトハ明瞭テ細座イマス、從ヒマシテ、右計畫ノ具體化ニ伴ヒ、此等ノ物資ヲ處理スベキ港湾設備ノ新築、擴築ヲ必要トスルモノガ段々出テ參ツテ居ル譯テ細座イマシテ、今後コノ方面ニ一段ノ留意ヲ致シタイト存スルノデアリマス

而シテ、石炭増産ニ關聯致シマシテハ、差當リ九州炭田、常磐炭田、宇部炭田、北海道炭田等ヨリ産出スル石炭ノ荷役設備ニ付テ考慮シテ居リマスルシ、鐵増産ニ關聯致シマシテハ日鐵關係ニ於ケル増産設備ノ企圖セラレテ居ル港湾ニ付テ、考慮シテ

居ルノデアリマス

(三) 臨海工業地帯ノ造成

第三 ハ、生産力擴充ノ基礎的施設トシテノ臨海工業地帯造成ノコトニ關シテ申上グタイト存ジマス、現代ノ戰爭ガ單ニ第一線ニ於ケル兵力ノ戰テハナクシテ、銃後ニ於ケル一切ノ國力ヲ包含シタ所謂綜合國力ノ戰デアリマス以上、現下ノ時局ニ對處シテ國運ノ發展ヲ期センガ爲ニハ此ノ際十分ニ生産力ヲ擴充シテ銃後國力ヲ涵養スルハ極メテ緊要ノコトト考ヘラルルノデ御座イマスガ、四面環海ノ我が國ニ於キマシテハ、臨海地帯ニ大規模ナル工場敷地ヲ造成致シマシテ、生産ノ經濟化、合理化ニ資スルコトハ極メテ有效適切ナル生産力擴充ノ基礎的施設ノ一ツデアルト存ジマス、現ニ、鶴見川崎方面ニ於ケル臨港地帯ガ殷賑繁榮ヲ極メテ居リマスルコトハ、臨海工業地帯ノ工場敷地トシテノ優越性ヲ物語ツテ居ルモノト存ジマス、現代ノ土木

技術ヲ以テスレバ、一帯ノ淺海ヲ變ジテ良好ナル工場敷地トスルコトハ極メテ容易デ御座イマス現ニ、神奈川縣ニ於テハ昭和十二年度以降十箇年繼續事業ヲ以テ、唯今申シマシタ鶴見川兩岸方面ノ既設地帯ニ引續キ百四十六萬坪ノ工業地帯造成ニ着手致シテ居リマスルシ、東京府ニ於テモ、之ト相關聯シテ、第一期事業トシテ百四十五萬八千坪ノ地立ヲ申請シテ居リマス、所謂京濱運河ト稱セララルモノガ即チコレデアリマスガ、近時此ノ種ノ事業ノ計畫セララルモノ頗ニ多キヲ加ヘテ居ル實情デ御座イマス、從ヒマシテ、内務省ト致シマシテハ、適切ナル指導ヲ與ヘテ、此ノ種事業ヲ促進シ以テ生産力ノ擴充ニ資センコトヲ期シテ居ル次第デ御座イマス、而シテ、コノ臨海工業地帯ノ造成ガ前ニ述べマシタ重要物資増産計畫ノ爲ニスル港灣施設トシテモ極メテ好適ノ場合ガ多イコトハ申上グルマデモナイコトト存ジマス

五、 港灣利用ノ調整

最後ニ港灣利用ノ調整ニ付テ一言致シタイト存ジマス
今次事變ノ發生以來軍事輸送使用ノ反面ニ於キマシテ、港灣ノ産業貿易ニ於ケル機能發揮ニ幾分缺クルトコロヲ生ジタ向モアルコトハ洵ニ止ムヲ得ザルトコロト存ジマスガ、戰爭ガ長期ニ亘リマシテ、軍ノ需要ヲ充足スルト共ニ、銃後國力ノ涵養、産業貿易ノ進展ニモ深甚ナル考慮ヲ拂フ必要ガアリマスコトモ明白デアリマスカラ、此ノ見地ヨリ必要ト認ムル港灣修築ヲ施行致シマスルハ勿論、爾今一層關係各方面ノ連絡協調ヲ緊密ニ致シマシテ、各港灣ノ實情ニ應ジ、能フ限り、軍需ト民需トノ調和ヲ圖リ以テ國家總動員上港灣ノ使命達成ニ遺憾ナキヲ期シタイト存スルノデアリマス



國家總動員會議三於ケル各廳說明要旨

運輸ニ關スル事項

海運省 伊勢谷管船局長

企 畫 院

昭和十三年五月二十一日

企總勅〇五號、八、三

海上輸送力ノ確保、充實ニ關スル事項

一、支那事變前ニ於ケル海運強化方策

優秀經濟船ノ整備擴充ハ海運專業ノ國際性ニ鑑ミ本邦海運力對外
發展ノ基礎的要件ナルノミナラズ他面又國防上不可缺ノ要請ナル
ヲ以テ從前ヨリ之ニ關シ諸方策ヲ講ジ來リタルガ特ニ最近ニ於ケ
ル左ノ諸施設ハ本邦海上輸送力ノ確保充實ニ貢獻スル所大ナルモ
ノアリタリ

(一) 船舶改善助成施設

(二) 優秀船建造助成施設

(三) 造船金融施設

二

支那事變ノ本邦海運ニ及ボシタル影響

事變ノ勃發ニ伴ヒ急激ニ多量ノ船腹軍用ノ爲徵傭セラレタル結果勢ヒ配船ノ偏在、荷動ト船腹トノ需給ノ不圓滑、運賃傭船料ノ騰貴等ヲ招來シ本邦海運界ニ相當ノ動搖ヲ及ボシタルガ特ニ右徵傭船ノ約七割ハ近海方面ノ就航船ナリシヲ以テコノ方面ニ於ケル船腹不足ハ相當顯著ニシテ海上輸送ノ圓滑ナル遂行ニ影響ヲ及ボシタルハ否ミ難シ

三

支那事變ニ對スル措置

(一) 外國船ニ對スル本邦沿岸貿易特許

徵傭船ニ依ル影響最モ甚シカリシ近海方面ニ於ケル海上輸送ノ圓滑ヲ期スル爲昨年八月一日不取敢從來船舶法第三條ノ運用上本邦沿岸貿易ヲ禁止セラレ居リタル關東州置籍船並ニ一般外國船

ニ對シ航路及載貨ノ種類ヲ考慮ノ上當分ノ間本邦沿岸貿易ヲ特
許スルコトトナシタリ、本年四月末現在ニ至ル迄、沿岸貿易特
許船延總數左ノ如シ

五〇三隻

一五八萬總噸

(二) 臨時船舶管理法ノ施行

戰時体制下ニ於ケル海上輸送ノ圓滑ヲ圖リ常ニ國家ノ適正ナル
指導方針ノ下ニ重要物資ノ輸送、物價ノ調整、對外航權ノ維持
等ヲ萬遺憾ナク遂行セシムガ爲去ル第七十三回帝國議會ニ於
テ臨時船舶管理法ヲ制定シ昨年十月一日ヨリ之ヲ施行セリ、本
法ニ關聯スル事項左ノ如シ

(イ) 運賃及配船ニ關スル事項

右ニ關シテハ政府ハ事變勃發當初ヨリ極力民間業者ノ自肅自制
ヲ要望シ其ノ自治的協定ヲ促シタル處這般本邦海運ノ自主的統
制ヲ目的トシテ結成セラレタル海運自治聯盟ノ協定セル標準運

賃率一般ニヨク遵守セラレ急激ナル運賃ノ昂騰ハ抑制セラレテ
目下ノ處本邦海上物資ノ輸送ハ比較的規律アル運營ノ行ハレツ
ツアリ、直接本法ノ發動ヲ見タルコトナシ

(ロ) 船舶確保ニ關スル事項

事變下ニ於ケル本邦船腹確保方策トシテハ日本船舶ノ外國人へ
ノ移轉ハ之ヲ原則トシテ禁止スルトトモニ他而現存船腹ノ合理
的使用ト新造船促進策ノミヲ以テハ急激ナル需要増加ヲ充足シ
難キ場合ヲ考慮シ昭和八年以來事實上禁止セラレ居リタル外國
船ノ輸入許可制ヲ緩和シ一定條件ノ下ニ外國船ノ取得ヲ許可ス
ルコトト爲シタリ、コレニヨリ取得ヲ許可セラレタルモノ本年
四月末迄ニ

六七隻

三十萬噸

ニ達ス

(ハ) 海上勞働力ノ調整ニ關スル事項

船舶ノ輻輳ニ依リ船員ノ供給不足ヲ生ジタル爲高級船員ノ臨時養成、小型船職員ノ養成等ニ關シ應急措置ヲ講ズルト共ニ船員職業機關ヲ擴充シ積極的ニ船員募集ヲ行ハシム

(二) 造船用鋼材ノ需給ニ關スル事項

鋼材飢饉ノ影響ニ因リ造船計畫遂行ニ障害ヲ及ボスベキ虞アリタルヲ以テ之ガ低廉迅速ナル供給ヲ圖ル爲、共同注文ノ獎勵、造船鋼材種類ノ單純化等適當ナル措置ヲ講ジツツアリ

(三) 支那向貨物ノ輸送禁止

對戰中ノ支那各地行荷物ヲ日本船舶ニ依リ輸送スルハ單ニ不穩當ナルノミナラズ抗日行爲ヲ益スルノ結果ヲ招來スベキ慮アリタルヲ以テ、直接間接戰鬥手段ニ利用シ得ル物品ニ付テハ日本船ニ依ル輸送ヲ禁止制限スルコトトナシ、臨時船舶管理委員會幹事會ニ於テ支那向貨物輸送禁止基準ヲ制定シ本邦海運業者ニ通達セリ

(四) 支那事變關係海運業損害復舊資金金融施設

事變前支那ニ於テ海陸設備ヲ有シ海運業ヲ經營セル者ニシテ今次事變ニ依リ其ノ所有財産ニ損害ヲ蒙リタル者相當アリ、之等ノ者ノ船舶及海陸設備ノ復舊ヲ業者ノ自力ニ放任スルトキハ到底急速ナル復舊ヲ行ヒ得ザル實情ニアルヲ以テ今期議會ノ協贊

ヲ經テ復舊資金低利金融ノ途ヲ謹ジタリ

貸付限度額ハ九百二十萬圓ニシテ利率ハ三分七厘ナリ

三 將來ニ對スル船腹擴充方策

最近ニ於ケル本邦ノ造船熱ハ極テ旺盛ニシテ新造船ハ昨年及今年ヲ通ジ百萬噸ニ及ブ狀況ナリ、然レドモ國防ノ充實、生産力擴充政策ノ遂行ニ伴フ海上輸送物資ノ増加及本邦對外航權ノ擴張等ヲ考慮スルトキハ我國船腹需要量ハ將來益々増大スベキヲ以テ、今後一層積極的ナル優秀船舶ノ建造獎勵方策ヲ講ズルト共ニ本邦造船能力ノ整備、擴充ヲ講ズルノ要アリ、之ニ關シテハ目下銳意具

体策講究中ナルガ今期議會ニ於テ協贊ヲ經タルモノ左ノ如シ

(一) 造船金融施設ノ改正

従前ノ金融施設ニ於テハ貸付限度額ハ七千萬圓ニ過ギズ到底一般需要ニ應ジ得ザリシヲ以テ之ヲ増額シ貸付限度額ヲ一億五千萬圓ニ改メタリ

(二) 大型優秀船建造助成施設

太平洋ニ於ケル本邦航權ノ征覇ヲ期スル目的ヲ以テ將來桑港線ニ從事スベキ二萬六千五百噸型ノ大型優秀船二隻ノ建造ヲ助成スルコトトナシタリ

四 海上國民精神總動員聯盟ノ活動

海上輸送力ノ確保、充實ヲ期セムガ爲ニハ直接之ガ運航ニ當ルベキ船員ノ優秀化ヲ講ズベキハ論ヲ待タザルヲ以テ之ニ關シテモ目下具体策考究中ナルガ先般主要海上勞資團體一体トナリ海上國民精神總動員聯盟ヲ結成シ時局ニ關スル認識ノ徹底、航海安全ノ確

保、品性及体位ノ向上、資源ノ愛護等ニ關スル實踐ニ從事シツツ
アリ本邦船員ノ素質向上ニ資スル所ナルヲ以テ積極的ニ之ガ指導
援助ニ當リツツアリ

五、海陸聯絡輸送ニ關スル事項

海上荷動輻輳スルニ伴ヒ往々ニシテ港灣施設ノ不完備ニヨリ船込
ミヲ來シ船腹ノ能率的使用ニ支障ヲ及ボスコトアルヲ以テ港灣ニ
於ケル荷役設備其ノ他ノ施設ニ付改良ノ必要ヲ認ムルモノアリ



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

運輸ニ關スル事項

拓務省 植場殖産局長

企總動一〇一五號ノ八ノ四

昭和十三年五月二十三日

企 畫 院

(一) 海上輸送力ノ確保充實ニ關スル事項

今次支那事變勃發ニ由リ軍隊並ニ軍需資材輸送ノ必要上船舶ノ徵備セララルモノ多ク爲ニ一般貨物輸送用船腹ニ不足ヲ來タシ産業貿易ノ維持發展上遺憾ノ點アリシニ鑑ミ船腹ノ確保、運賃、備船料及配船ノ調整、造船ノ促進等ヲ圖リ以テ海上ニ於ケル一般交通運輸ヲ調整スル爲外地ニ於テモ内地ト同様臨時船舶管理法ノ施行ヲ見タル外近海方面ノ船腹ノ需給ヲ調整スルガ爲外地ニ於テモ内地ニ步調ヲ合セ關東州及一般外國籍船ノ沿岸貿易ヲ認メ來レリ又朝鮮ニ於テハ貿易増加量年二百萬噸ニ對應シ輸送上必要トセラ

ルル朝鮮置籍船年二萬總噸建造ヲ目標ニ朝鮮重工業會社ヲ設立シ不
取敢十三年度以降三ヶ年國費補助金五〇萬圓ヲ交付シ七千噸級船
渠一基ノ設備ヲセシムルコトト尙順次三千噸級船臺三基等ノ施設
ヲ爲サシメ又臺灣ニ於テハ十四年度内迄ニ經費三、三、三五千圓ヲ
テ一萬噸船渠ヲ築造スルノ計畫アリ以テ獨自ノ海運發達ニモ努メ
ツツアリ又十ヶ年計畫テ總經費二千七百萬圓ヲ以テ臺中州下梧棲
ノ築港計畫ヲ爲シ本島港灣施設ノ完璧ヲ期シツツアリ

(二) 陸上輸送力ノ確保充實ニ關スル事項

朝鮮ニ於テハ事變以來軍需輸送輻輳セル外北支ヘノ車輛ノ融通ニ
依リ民間輸送力激退シ一時ハ滯貨ヲ見タルモ總督府當局ノ措置宜
シキヲ得テ圓滑ニ處理セラレツツアリ尙軍事上産業上ノ必要ヨリ
慶州京城間ノ建設計畫ヲ繰上ゲ及京釜線ノ復線ヲ繰上ゲタリ
機關車、貨車等車輛增備計畫ニ付テハ既定計畫ヲ以テ進ミツツア
ルガ最近ニ於ケル旅客貨物數量ノ増加ト國防上必要ナル特別輸送

計畫ノ爲既定計畫ニ追加之ガ整備ヲ計ラント計畫シツツアリ新線敷設ト特別輸送ノ爲通信施設ノ擴張ヲ計リ回線ノ増加、固定無線施設ノ整備ニ努メツツアリ
施設ノ整備ニ努メツツアリ
時局ニ鑑ミ生産力擴充ヲ要スル石炭、鐵、電力開發ノ爲平北、三陟、端豐、朝鮮鐵道等ノ私鐵ヲ敷設若ハ改良シ資源ノ開發ニ努メツツアリ

(三) 海陸連絡輸送ニ關スル事項
水陸連絡施設ニ付テハ軍需輸送ノ關係上釜山港ハ相當ノ荷物ノ陸上ヲ要スルコトナリタルガ總督府ノ措置宜敷ヲ得荷役能力ヲ遙カニ越エテ之ヲ輸送スル事ヲ得タルガ今後ニ於テハ現在ニ倍加スル能力ヲ保有スベク工事中ナリ
徵發自動車ニ付テハ必要ナル對策ヲ講ジ差シタル支障ヲ見ズ



國家總動員會議ニ於ケル各廳説明要旨

勞務動員ニ關スル事項

商工省

豊田文書課長

| | |
|---|--------------|
| 企 | 企總動一〇一五號ノ九ノ一 |
| 昭 | 昭和十三年五月十九日 |
| 院 | 企 |
| 畫 | 畫 |

一、職工及鑛山ノ係員養成ニ關スル事項

(1) 我國生産力ノ擴充ヲ圖ル爲ニハ原材料等物資ノ動員ト相並ン

テ勞働力ノ補給特ニ差當ツテハ熟練機械工ノ不足ヲ急速ニ補填セネバナラヌ實情デアリマスノデ商工省ニ於キマシテハ昨年ノ技術者及熟練工養成方策ニ關スル閣議決定ノ趣旨ニ依リ昭和十二年度百二十五萬圓ノ豫算ヲ得マシテ國立機械工養成所ノ設置及公、民營機械工養成所ノ助成ヲ致スコトニシマシタ即チ國立ノ養成所ハ東京、大阪及名古屋ニ設ケ一般機械工並ニ役付工乃至指導員タリ得ベキ者ヲ一ヶ年一、〇五〇人養

成スルコトトナツテ居リマス此所テ養成スル者ハ中等學校卒業程度ノ者トシテ寄宿舎ニ起居セシメ精神的訓練ヲモ行フコトニシテ居リマス東京ノ養成所ハ去ル四月一日ヨリ開所シ其ノ他モ目下開所準備中デアリマス

次ニ公、民營養成施設ノ助成トシマシテハ府縣市或ハ工業組合等ガ養成施設ヲ設置スル場合之ニ對シ費用ノ半額ヲ補助シ一ヶ年一、〇〇〇人ヲ養成スルコトトシ既ニ東京府外十一地方十六ヶ所ニハ補助金ヲ交付シ夫々四月ニ開所シマシタ此所ニ於テ養成スル者ハ高等小學校卒業程度トシ養成期間ハ一ヶ年デアリマス本年度ニ於テハ右ノ養成施設ノ助成ヲ更ニ十ヶ所増加（一ヶ年養成人員五〇〇人）スルコトニシ目下詮衡中デアリマス尙右ニ述べマシタノハ自力ヲ以テ熟練工ヲ養成スルコト困難ナ中小工業ニ之ヲ補給スルノヲ趣旨トシタ施設デア

リマスガ大規模工場ニ養成自給ヲ勸奨督勵スル方法トシテハ職
工養成委員會ヲ中央及主要工業府縣ニ設置シ民間工場ノ養成狀
況ノ改善ニ付研究指導ヲ行フコトニシタノデアリマスガ昨年末
ニハ中央委員會、本年ニ入ツテハ東京、神奈川、福岡等ニ續々
地方委員會ガ設置セラレマシタノデ將來ハ之等ノ活動ニ依リ逐
次機械工ノ自給力ガ量的ニモ質的ニモ増進シテ參ルト思ヒマス
シ又狀況ノ推移ニ依リマシテハ今般施行セラレマシタ國家總動
員法ノ條項ニ基キ所謂見習工保有制度ノ實施モ考慮シタイト思
ツテキマス

(ロ) 次ニ鑛山現場係員ノ養成ニ付申述ベマスルニ先ヅ石炭ノ増産計
畫ヲ推進スル爲ニハ石炭鑛ニ於ケル現場係員ガ現在不足シテ居
リマスノデ之ヲ補フ爲昭和十二年度豫算十二萬三千圓ヲ以テ民
間團體ノ養成施設ヲ助成スルコトニシマシタ即チ本計畫ハ高等

小學校卒業乃至中等學校卒業程度ノ者四〇〇人養成期間一ケ年ヲ以テ石炭採掘災害防止等ニ關スル實智識ヲ教授セシムルコトニシテ居リマス而シテ右團體タル北海道石炭鑛業會及筑豊石炭鑛業會ニ於テハ既ニ補助金ノ交付ヲ受ケテ四月ヨリ養成ヲ開始シマシタ

(ハ) 最後ニ金ノ増産計畫ノ遂行ニ遺憾ナカラシメル爲ニ金山現場係員ノ養成ヲ行ハシムルコトトシ昭和十二年度二萬圓ノ豫算ヲ以テ住友、三井、三菱及日本鑛業ノ四社ニ補助金ヲ交付シマシタ即チ本計畫ハ養成人員一ケ年二〇〇人、養成期間一ケ年教育方針ハ石炭ニ於ケルト大體同様デアリマス右ノ四ヶ所ハ目下銳意養成ヲ行ツテ居リマス



國家總動員會議ニ於ケル各廳説明要旨

勞務動員ニ關スル事項

厚生省 熊谷職業部長

企總動二〇五號ノ九ノ二ノイ

昭和十三年五月十九日

企書院

勞務動員ニ關シ現ニ採リツツアル
措置竝ニ將來採ラントスル措置

(1) 職工養成ニ關スル事項

熟練職工ノ拂底ハ軍需工業ノ進展ノ高度化ト共ニ甚ダシク職業紹介機關ニ於キマシテモ之ガ需給ノ調整ニハ苦慮シテ居リマス一般ニ大工場ニ於キマシテハ自己ノ工場ニ附設スル職工養成施設ヲ持ツテ居リマスガ斯ル施設ヲ講ズル餘力ナキ中小工場ニ於キマシテハ之ガ充足ニ困難ヲ極メテ居ルノデアリマス加之中小工場ニ於キマシテハ舊來ノ徒弟制度ノ域ヲ脱セザルモノガアリ雇傭條件モ比較的低ク採用後ニ於テモ青少年ノ將來ニ對シ不安ヲ與フル等カラ

シテ求職者ノ吸引ニモ困難ガアル狀況デアリマス
從來都市ニ於ケル職業紹介所中ニハ簡易ナル職業補導ノ施設ヲ爲
スモノモアリ隨時時勢ノ要求ノ大ナル職業ニ要スル知識技術等ヲ
簡易ナル補導ニ依ツテ求職者ニ與ヘテ居タノデアリマスガ改正法
律職業紹介所國營ヲ機トシテコノ職業補導施設ノ擴充ヲ圖リ、將
來ハ他ノ職工養成施設ト平行シテ職工需要地ニ於テ政府自ラ又ハ
府縣、市等ノ公共團體ヲシテ主トシテ中小工場ニ對スル見習職工
ノ職業補導ノ施設ヲ職業紹介所ト密接ナル聯絡ノ下ニ設ケルコト
トスル考ヘデアリマス

(ロ)

勞務需給調整ニ關スル事項

(一) 勞務需給狀況ノ一般

我が國ニ於ケル勞務ノ需給狀況ハ滿洲事變ヲ契機トシ軍需工業
ヲ樞軸トシテ漸増ノ傾向ヲ示シツツアリマシタガ今次ノ支那事
變勃發スルヤソノ需要ハ急激ニ増加ヲ來シテ居ルノデアリマス

先ツ五十人以上ノ勞務者ヲ使用スル工場ニ於ケル勞務者ノ雇入
狀況ヲ見マスルニ昭和十二年ニ於テハ昭和十一年ニ比シ約二十
五萬人ノ増加ヲ示シ此ノ數ハ昭和十二年中ニ於テモ七月以降ニ
於テ著シク増加シテ居ルノデアリマス之ヲ勞務ノ需要即チ求人
量ニ就テ職業別ニ見マスレバ全國公營職業紹介機關ノ取扱數ニ
於テ昭和十二年一月ヲ一〇〇・〇トシ其ノ全部ニ就テ見レバ十
一月ニ於テハ一四三・三トナツテ居ルノニ對シ機械器具製造ニ
於テハ八月二一六・二、九月四一六・〇、十月二三二・〇、十
一月一九〇・〇金融工業ニ於テハ八月三一七・〇、九月二一七・
〇、十月一六六・〇、十一月一〇九・二トナツテ居リ何レモ事
變勃發以降急速ニ増加シテ居ルコトヲ示シテ居リマス

(二) 軍需勞務要員充足ノ措置

陸海軍作業廳及民間軍需工業ニ於ケル勞務要員ノ充足ニ付テハ
職業紹介機關ニ於テ積極的ニ之ガ斡旋ニ當リ且ツ其ノ全國的統

制ヲ圖ルノ必要ナルヲ認メマシテ内務、陸軍、海軍三省協議ノ上「軍需勞務要員充足ニ關スル取扱要領」ヲ定メ之ニ依ル軍需勞務要員ノ迅速且適確ナル充足ヲ圖ツテ居リマス今其ノ取扱要領ノ概要ヲ示セバ左ノ如クデアリマス

(1) 軍需勞務要員充足ノ機關

軍需勞務要員ハ原則トシテ凡テ厚生省所管ノ職業紹介機關ガ之ガ充足ニ當リ道府縣ニハ軍需勞務幹旋部又ハ軍需勞務係ヲ置キマシテ職業紹介機關ノ中心トナリ職業紹介所、市町村長ノ外、青年學校、青年團、在郷軍人分會等ト緊密ナル連繫ヲトリマシテ軍需勞務要員充足ニ遺憾ナキヲ期シマスルト共ニ中央ニハ内務省社會局（厚生省職業部）ガソノ全國的統制ニ當ル外名古屋、大阪、廣島、福岡等ノ主要ナル軍需勞務者ノ需要地ニハ内務省社會局カラ地方係官ヲ派遣駐在セシメマシテ其ノ地方ニ於ケル勞務需給ノ調整ニ當ラシメマシタ地方係

官ハ昨年十二月末駐在ヲ廢シ其ノ駐在地ノ府縣ヲシテ其ノ事務ヲ行ハシメテ居リマス

(2) 軍需勞務要員募集ノ統制

軍需勞務要員充足ノ迅速ト適確トヲ期スル爲ニハ募集地域ヲ設定シ勞務供給ノ地域的ナ調整ヲ圖ルコトガ必要デアリマス
ノテ陸海軍ノ勞務要員募集區域ニ應ジテ民間軍需工場ノ募集區域ヲ關東、中部、近畿、中國、九州、北海道ノ六地域ニ設定シソノ區域内ニ所在スル工場ノ勞務者募集ハソノ地域内ニ於テ行ハシメルコトト致シマシタ

(3) 充足方法

陸海軍作業場ノ軍需勞務要員ノ募集ハ原則トシテ内務省社會局（厚生省職業部）又ハ地方係官ニ於テ之ヲ受付ケ關係道府縣ニ募集人員數ノ割當ヲ行ヒ又民間軍需工場ニ於ケル勞務者ノ募集ハ道府縣嚙ニ直接ニ又ハ地方ノ職業紹介所ヲ經テ道府

縣廳ニ之ガ申込ヲ爲サシメ道府縣ハ更ニ地方係官ノ指揮ヲ受
ケテ關係道府縣ニ之ヲ聯絡スルコトトシ無統制ナル募集ヲナ
サシメヌヤウニ致シマシタ

以上ノ如キ方法ニ依リマシテ昨年七月以降職業紹介機關ニ於キマ
シテ相當ノ成績ヲ舉ゲタノデアリマス今後ノ勞務需要ノ見透ニ就
キマシテハ勞務ノ需要ハ益々増加ノ傾向ヲ辿リ特ニ晝夜作業トナ
レバ其ノ數モ愈々増加スルデアリマセウ之ニ付キマシテハ農林省
及内務省、特ニ農林省ノ協力ヲお願いヒイタイコレガ爲近ク地
方係官ヲ派遣シテ努力シマスト共ニ將來若シ充分ナル勞務者ヲ得
ラレナイ場合ニ對處スル方法ヲ考ヘテ居リマス

附一、 歸郷軍人ノ就職斡旋

歸郷軍人ノ就職斡旋ニ就キマシテハ去ル四月一日ニ一部改正セラ
レマシタ「入營者職業保障法」ノ趣旨ノ徹底ヲ圖ルノハ勿論デ
アリマスガ既ニ出征部隊ノ一部交替モ行ハレ今後モ隨時交替ガ

行ハレルト考ヘラレマスノテ陸海軍兩省ト協議ノ上召集解除者就職幹旋要領ヲ定メマシテ職業紹介機關ヲシテ軍部隊、在郷軍人職業補導部等ト緊密ナル連繫ヲ圖リ其ノ就職幹旋ニ遺憾ナカラシムルコトトシ道府縣ニハ歸郷軍人就職幹旋部等ノ特別ノ組織ヲ設ケサシメマシテ豫メ軍部隊ト聯絡シテ召集解除トナルベキモノニ關シマシテ必要ナル事項ヲ承知スルト共ニ他方豫メ事業主ニ付求人申込調査ヲ行ヒ萬遺漏ナキヲ期シテ居ルノデアリマス尙指導方針トシテ案リニ職業轉換ヲナサシメズ能フ限り原職復歸セシムルコトハ勿論デアリマス又必要ナル場合ハ職業紹介所ヲ通ジテ就職費（旅費、支度料其ノ他）ノ給與ヲナサシムルコトト致シマシテ現在迄ノ狀況ヲ綜合シマスルニ大體原職ニ復歸シ新トニ就職ヲ希望スルモノハ比較的少數デアリマス

附二、支那事變ニ伴フ失業狀況竝ニ之ガ對策

支那事變ハ韓ノ滿洲事變ヲ契機トシマシテ増加ノ傾向ヲ辿リツ

ツァリマシタ勞務ノ需要ニ一段ト拍車ヲ加ヘルコトトナツタノ
デアリマスガ(イ)從來原料ヲ支那大陸ニ仰イテ居タモノテ事變ノ
爲輸入ノ杜絶モルモノ或ハ海外販路ノ狹小トナレルモノ(ロ)國民
全般ノ消費節約ニ因リ不振トナレル奢侈品製造業(ハ)各種ノ經濟
統制ノ結果原料品ノ入手困難トナレル等ノ爲ニ不振トナレルモ
ノ等戰時經濟統制及事變ノ間接的影響ニ因リマシテ平和産業ノ
一部ニ一時的現象トシテ失業狀況ヲ現出スルニ至リマシタ爾工
省ニ於カレテモ失業ノ虞アルトキハ聯絡ヲトツテ頂キタイト存
シマス内務省社會局ニ於キマシテハ昨年九月各地方長官ニ通牒
シテ之ガ失業防止特ニ一方ニ於テ軍需勞務ノ需要ノ激増ニ鑑ミ
可及的コノ方面ニ就職セシメ或ハ適當ナル授産方法ヲ講ジ又職
業轉換ヲ圖ラシムルヤウ應急的措置ヲ講ゼシメマシタソノ結果
事變ノ影響ニ因リ不振トナレル産業ニ於テモ現在ニ於テハ深刻
ナル失業狀況ハ見ラレズ漸次緩和セラレツツアル狀態デアリマ

ス
登録ニ關スル事項

國民ノ職業能力ノ登録ニ付キマシテハ總動員實施準備トシテ今日ノ時局ニ鑑ミ一日モ速ニ之ヲ實施スルコトヲ要スルノデアリマスガ其ノ實施ノ爲ニハ之ガ第一線ノ機關ヲ擴充整備シナクテハナラヌノデアリ又第一線ノ機關トシテハ國民ノ職業ニ關與スル職業紹介所ヲシテ之ニ當ラシメルノガ最モ適當デアリマス今回我國現下ノ情勢ニ鑑ミ職業紹介所ガ國營トセラレタノデアリマスガ此ノ國營職業紹介所ヲ整備シ之ヲシテ其ノ實施ノ衝ニ當ラシメルコトトスル豫定デアリマス此ノ國營職業紹介所ハ本年七月ヨリ明年四月ニカケテ開設セラレルコトニナツテ居ルノデ之ガ整備ノ上登録ヲ實施スベク本年度ニ於キマシテハ其ノ準備ニ付計畫ヲシタノデアリマスガ其ノ經費豫算ノ計上ヲ見ルニ至ラナカツタノデアリマス明年度ニ於テハ是非之ヲ實施スルコトトシタイト考ヘテ居リマス

ガ出來ルダケ少イ費用ヲ最モ實際ニ利用シ得ルモノトスベク其ノ
實施ノ方法ニ付更ニ研究ヲ重ネテオリマス尙何時ニテモ出セル様
ニ致シタイト之ガ成案ヲ急イデ居ル次第デアリマス

(二) 職工爭奪防止ニ關スル事項

最近生産力ノ擴充ニ伴ヒ各種職工ノ不足ヲ告ゲツツアルノデアリ
マスガ今次事變勃發以來單需勞務要員ノ増大ト共ニ機械職工等ノ
爭奪益々深刻化シ各事業者相互ノ受ケル迷惑尠カラザルハ勿論軍
需要員ノ充足ニモ支障ヲ及ボス結果ヲ生ズル虞アルニ鑑ミマシテ
之ガ應急ノ措置トシテ昨年十月地方長官宛「職工爭奪防止ニ關ス
ル件」ナル通牒ヲ發シマシテ其ノ對策ニ十全ヲ期シテ居リマス右
通牒ノ要旨ハ次ノ如クデアリマス

(一) 金屬及機械職工ノ募集ニ付テハ新聞廣告ポスター等ノ方法ハ遠
慮セシメ職業紹介機關ヲ通ジテ之ヲ行フ様慫慂シ新聞其ノ他ニ
廣告セルトキハ直ニ事業主ニ注意スルコト

(二) 金屬及機械職工其ノ他ノ熟練工ノ募集ハ職業紹介機關ニ於テ他ノ事業ニ影響ヲ及ボサズニ紹介シ得ル見込アル場合ノ外未經験者ノ募集ニ變更シテ申込マシムル様求人者ヲ指導スルコト

(三) 職業紹介機關ニ於テハ求職者ガ現ニ他ノ工場又ハ事業場ニ從業中ノモノニ非ザルヤ否ヤ及其ノ工場ノ事情等ヲ查察シ濫リニ職工引拔ノ結果ヲ招來セテ様措置スルコト

(四) 從來工場相互ノ職工其ノ他勞務者ノ爭奪防止ノ規約申合等ヲ定メ實施中ノモノニ付テハ其ノ徹底ヲ圖ラシメルコト

(五) 勞務者ノ爭奪特ニ甚シト認メラルル地方ニ於テハ各工場又ハ事業場管理者ヲシテ必要ト認ムル職種ノ連名簿ヲ工場又ハ事業場相互間ニ交換シ異動ノ都度相互ニ通報スル等ノ方法ヲ講ジ爭奪防止ヲ圖ルコト

其ノ後地方廳ノ措置ノ狀況ヲ見マスルニ或ハ本件ニ關スル主要事業主ノ懇談會ヲ開催シ又事業主等ヲシテ相互ニ職工爭奪防止ノ申

合ヲナサシメ或ハ職工移動、引拔等ノ事例ニ常ニ注目シ其ノ事例
アリタル場合直ニ當事者ヲ招致シ詳細注意ヲ與ヘ職工募集ノ新聞
廣告等ヲナス者アリタル場合ハ其ノ廣告主ニ注意ヲ促シ其ノ他勞
働者募集ノ方法特ニ募集従事者ノ使用等ニ付充分ニ配意スル等ノ
方法ヲ講ジテ居リ漸次各工場事業主ニ職工爭奪防止ニ關スル趣旨
ハ徹底セラレツツアル様デアリマス今後一層其ノ爭奪ガ著シクナ
リ專業主ノ自制ノミニ俟ツコト能ハザルニ至ツタナラバ適當ナル
法制ヲ整備シナクテハナラヌデアリマセウ總動員法第六條ニ依ル
勅令モ考慮スル必要ガアリマス又紹介所ノ強制利用ト云フコトモ
考ヘラレマス



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

勞務動員ニ關スル事項

厚生省 林衛生局長

企總動一〇二五號ノ九ノ二ノ口

昭和十三年五月十九日

企

畫

院

特殊技能者登録ノ件

國家總動員法ノ成立ニ基キマシテ同法第二十一條以下ノ平時立法トシテ醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦等所謂特殊技能者二十余万人ノ徵用計畫ヲ樹立致スコトシ職業能力申告令ノ如キヲ制定シ一定事項ニ付一定期間ニ申告セシメ右ニ基キ登録並徵用名簿ヲ作成シ醫師ノ全國的分布狀況ト國內醫療ノ適正トヲ照合セシメツ各々専門別ニ戰局ニ應ズル數段階ノ動員計畫ヲ樹立スベク又第四條ニ基ク戰時立法トシテノ徵用手續其ノ他ノ法令ノ準備中デアリマスガ十三年度豫算ノ關係上七月ヨリ中央並地方廳ノ要員ヲ充足スル豫定デアリマス

IMT 640

348



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

勞務動員ニ關スル事項

文部省 田中商工教育課長

企總動一〇一五號九ノ三

昭和十三年五月二十一日

企 畫 院

技術者及職工養成ニ關スル事項

工業技術員ノ養成ニ關シマシテ文部省ニ於テ實施致シマシタ施設ニ就イテ申述ベマス

昨年ノ臨時議會ニ於テ認メラレマシタ豫算ニヨリ昨年十月不取取高等工業學校及ビ地方ノ中等工業學校ニ於テ六ヶ月間ノ短期養成ノ施設ヲ致シ中等學校卒業生約二一〇〇名ヲ入レマシテ本年三月卒業セシメタノデアリマス

十三年度ハ大學及ビ高等工業學校等ニ於テ約一一〇〇名地方ノ中等工業學校ニ於テ約三四〇〇名合計約四五〇〇名ヲ增加募集致シマシ

タガ其ノ修業年限ハ一年二年三年又ハ四年ヲ要スルモノガアリマシ
テ四千五百名ツツ明年三月ヨリ増加卒業セシムルコトハ出來マセヌ
明年三月ニ於テハ約二四〇〇名ヲ増加セシムルコトニナリマス 尙
此ノ増募數四五〇〇名ハ機械、電氣、應用化學、採鑛冶金ノ四學科
ニ屬スルモノデアリマシテ之ヲ從來ノ當該學科ノ募集人員ニ比較致
シマスト約六割ニ當リマス 大學、高等工業學校ニ就テハ約四割中
等工業學校ニ就テ見レバ約七割ノ増加トナリマス
技術者ノ養成ニハ相當ノ期間ヲ必要ト致シマスノデ昨年末ニ現下ノ
急需ニ應ズル一策トシテ三ヶ月ダケ早ク學校ノ課程ヲ切り上ゲテ就
職セシメソシテ就職後ノ工場勤務ヲ學校ノ實驗實習ト看做シテ取計
フ様各高等工業學校ニ通牒致シタノデアリマス
今回ノ増募ノ員數ハ石炭協議會ノ決議ニ基ク採鑛科ノ外ハ近年各學
校卒業者ノ採用ヲ申込マレタ其ノ需要員數ト事變前ノ工場技術員ノ
増加趨勢トヲ基礎トシ又一方學校設備ヲ參酌シマシテ得タ數デアリ

マス即チ現在ノ學校設備ヲ成ル可ク其ノ儘ニ利用スルト云フ建前ヲ採ツタノデアリマスガ工業學校ノ數ガ全國的ニ見テ少ナイノテ現下ノ工業ノ情勢ニ鑑ミ且ツ又生産力擴充ノ國策ニ副フ爲ニハ決シテ充分トハ申サレマセン

蓋シ工業學校ハ他ノ學校ト異リ特ニ實驗實習ヲ必要トシマス關係上學校ノ創設、學科ノ増設又ハ定員ノ増加等ニハ相當ノ費用ヲ要スルノデアリマシテ地方ニ於テハ生産力ノ擴充ニ關シ技術員ノ養成ハ特ニ急務デアルト認メ乍ラ他ノ學校ノ様ニ容易ニ擴充スルコトガ困難ナ事情ニアルノデアリマス 依テ財政ノ許シマス範圍ニ於テ尙ホ相當ノ經費ヲ支出シ公私立ノ施設ニ對シテハ國庫補助ヲ致シ今後更ニ工業技術員ノ養成ヲ致シタイト存ジマス。

参 考

一、工業學校臨時施設ニ依ル卒業生見込調

| 卒業年度 | 十三、三 | 十四、三 | 十五、三 | 十六、三 | 十七、三 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 機械科 | 九二五 | 一、一六五 | 一、六四五 | 一、六四五 | 一、六四五 | 七、〇二五 |
| 電氣科 | 三三〇 | 三七〇 | 五三〇 | 五三〇 | 五三〇 | 二、二九〇 |
| 應用化學科 | 三〇五 | 三〇五 | 四二五 | 四二五 | 四二五 | 一、八八五 |
| 採鑛冶金科 | 四〇 | 四四〇 | 四四〇 | 七六〇 | 七六〇 | 二、四四〇 |
| 計 | 一、六〇〇 | 二、二八〇 | 三、〇四〇 | 三、三六〇 | 三、三六〇 | 一三、六四〇 |

二、高等工業學校臨時施設ニ依ル卒業生見込調

| 卒業年度 | 廿三、三 | 十四、三 | 十五、三 | 十六、三 | 十七、三 | 計 |
|-------|------|------|------|------|------|-------|
| 機械科 | 二八〇 | 八〇 | 八〇 | 五六五 | 五六〇 | 一、五六五 |
| 電氣科 | 九〇 | 一 | 一 | 九〇 | 九〇 | 二七〇 |
| 應用化學科 | 九〇 | 一 | 一 | 九〇 | 九〇 | 二七〇 |
| 採鑛冶金科 | 六〇 | 一 | 一 | 一八〇 | 二一〇 | 四五〇 |
| 計 | 五二〇 | 八〇 | 八〇 | 九二五 | 九五〇 | 二、五五五 |

三、航空技術員養成施設ニ依ル卒業生數

| 卒業年度 | 十三三 | 十四三 | 十五三 | 十六三 | 十七三 | 計 |
|------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 大學 | 一八 | 一八 | 二七 | 四四 | 六九 | 一七六 |
| 高工 | 一〇 | 一〇 | 二〇 | 四〇 | 四〇 | 一二〇 |
| 計 | 二八 | 二八 | 四七 | 八四 | 一〇九 | 二九六 |
| 備考 | <p>十二年度定員増加</p> <p>十三年度定員増加及大學高工ノ學科獨立</p> <p>十四年度大學ニ於テ學科新設ノ豫定</p> | | | | | |



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

勞務動員ニ關スル事項

拓務省

植場殖産局長

| | | |
|---|-------------|--------------|
| 企 | 昭和十三年五月二十三日 | 企總動一〇一五號ノ九ノ四 |
| 畫 | | |
| 院 | | |

(一) 技術者及職工養成ニ關スル事項

外地ニ於テモ事變勃發以來生産ノ擴充ニ伴ヒ技術者及職工ノ需要増大セル爲昨年度ヨリ短期間ノ職工養成ヲ開始シツツアリタルモ本年度ハ之ヲ擴充スルノ外更ニ高級技術者ノ養成ニモ努ムベク朝鮮ニ於テハ京城帝大ニ理工學部ヲ新設シ京城高等工業學校擴充ヲ計リ臺灣ニ於テモ商工專修學校ノ新設(臺南)擴充(高雄)ヲ爲スコトナレリ 尙其ノ他ニモ生産力擴充計畫ニ伴ヒ熟練工ノ養成ヲ計畫シ得ルモ基本トナルベキ熟練工ノ内地ヨリ供給ノ點ハ特ニ考慮ヲ要スルモノト認メラル

(二) 勞務者需給調整ニ關スル事項

朝鮮ニ於テハ輒近大規模工事勃興シ頓ニ勞力ノ需給増大セルニ鑑ミ募集輸送ニ努メツツアルガ事變以來幾多ノ國策事業實施サレントシ生産力ノ擴充ニ伴ヒ勞務者ノ需要増大ノ趨勢ニアルヲ以テ勞務者ノ需給調整ニ關シ國營機關ヲ整備スベク目下銳意研究中ナリ 尙外地ニ於テハ事變ニ依ル支那人ノ引上(臺灣ニ於ケル十二年七、八月中ノ歸還者三四五三人)ニヨリ下級勞働者ノ補充ニ相當ノ困難アリ之ガ對策トシテ臺灣ニ於テハ昨年九月ヨリ總督府ニ臨時勞務部ヲ設ケ支那人勞働者ノ補充及對岸ヨリノ引上島民ノ就職斡旋ニ努メツツアリ

(三) 登録ニ關スル事項

内地ニ於テハ近ク總動員法ニ基キ醫師、看護婦等ノ特技者ニ付登録制度ヲ實施セントスル計畫アルガ如キモ外地ニ於テハ未ダ

登録制ノ基礎トナルベキ職業紹介所ノ制度法制化セズ内地ト同
様ノ登録制度ヲ直チニ實施スルニハ相當困難ナル實情ニアリ差
當リ外地ニ於テハ地方團體ヲ利用スルノ外ナキモ國營職業紹介
機構ノ整備ニ付テハ目下銳意研究中ナリ



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

銃後施設ニ關スル事項

厚生省 藤原傷兵保護院計畫局長

| | | |
|---|---|---|
| 企 | 昭 | 企 |
| 畫 | 和 | 總 |
| 院 | 十 | 動 |
| | 三 | 一 |
| | 年 | 〇 |
| | 五 | 一 |
| | 月 | 五 |
| | 十 | 號 |
| | 九 | ノ |
| | 日 | 十 |
| | | ノ |
| | | 二 |
| | | ノ |
| | | イ |

傷痍軍人保護對策ニ就テ

今次事變ニ因ル多數ノ傷痍軍人及從前ヨリノ傷痍軍人ニ對シル保護對策ノ樹立ハ現下緊切ナル要務デアリマシテ之ガ實施ノ當否ハ皇軍ノ士氣及一般國民ノ思想ニモ關係アリ延イテハ國運ノ進展ニ對シ至大ノ影響ヲ及ボスモノト存ジマス此ノ趣旨ヨリシテ去ル四月十八日厚生省ノ外局トシテ傷兵保護院ガ設置セラレマシテ傷痍軍人保護對策ハ專ラ本院デ計畫並實施ヲスルコトニナリマシタノデ目下其ノ具體的對策ノ實施準備ヲ進メテ居ル次第デアリマス

傷痍軍人ノ保護對策ト致シマシテハ傷痍軍人ノ心身ノ回復ニ努メルト共ニ其ノ職業的基礎ヲ固メマシテ傷痍軍人トシテノ名譽ヲ永ク保

持セシムルト共ニ更ニ君國ノ爲第二ノ御奉公ヲ致サシムルコトヲ目的トスルノデアリマシテ從テ對策ノ内容ハ精神的方面ト物質的方面トノ二方面ニ亘ツテオルノデアリマシテ其ノ具體的方途ヲ申上ゲレバ第一ニ傷痍軍人ノ優遇第二ニ傷痍軍人ノ指導並一般國民ノ教化第三ニ傷痍軍人ノ醫療保護第四ニ傷痍軍人ノ職業保護ト斯様ニ大別サレルノデアリマス

此ノ中特殊保護施設ニ付キマシテハ主トシテ今後ノ實施ニ俟ツモノガ多イノデアリマス

只今申上ゲマシタ中デ傷痍軍人ノ優遇及指導並一般國民ノ教化ニ付キマシテ私カラ大略御説明致シタイト存ジマス

第一ニ傷痍軍人ノ優遇ノ一ツトシテ其ノ名譽ヲ表彰スル途ヲ講ジタイト考ヘテ居リマス

御承知ノ如ク現在軍人傷痍記章令ト云フ勅令ニ依リマシテ傷痍軍人ニ對シテ軍人傷痍記章ヲ授與スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス

ガ傷痍軍人ノ名譽ト矜持トヲ表徴スル爲ニハ現在ノ物デハ不充分デアリマスノデ目下之ガ改正ニ付陸海軍當局ニ於テ考案中デアルヤニ承ツテ居リマス

本院ト致シマシテハ之ガ改正ニ關聯致シマシテ全國各道府縣廳ニ傷痍軍人臺帳ヲ新ニ設ケシメマシテ各般ノ傷痍軍人保護對策ノ基本ト致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス更ニ大日本傷痍軍人會ヲシテ傷痍軍人ノ門戶ニ全國一樣ノ標識ヲ設ケシメタイト考ヘテ居リマス優遇ノ第二ノ事項ト致シマシテ各種ノ特典ヲ附與スル途ヲ講ジタイト思ツテ居リマス此ノ點ニ付キマシテハ既ニ煙草小賣人ノ指定或ハ收入印紙賣捌ノ許可等ニ付傷痍軍人ニ對スル優先取扱ガ認めラレテ居リマスシ亦國有鐵道無賃乗車ノ途モ拓カレテ居ルノデアリマスガ今後尙之ニ類スル優遇ノ途ヲ更ニ考究擴張スル必要ガ各省ノ關係ニ於テ存在スル様ニ思ハレルノデアリマス例ハ國及公共團體ノ管理經營ニ屬スル各種ノ文化施設又ハ慰安施設ノ無料利用或ハ又先程申

上ゲマシタル國有鐵道優遇ノ擴張尙更ニ國有以外ノ鐵道、軌道、船
舶等ノ優遇其ノ他許可認可營業ノ優先取扱等相當數多ク考ヘラレル
ノデアリマスガ之等ノ點ニ付キマシテハ特ニ關係各省ノ積極的御協
力ヲ願ハナケレバ其ノ實效ヲ期シ難イノデアリマシテ特段ノ御配慮
ヲ切望シテ止マナイ次第デアリマス

優遇ノ第三ノ事項トシテ生活保全ト云フコトヲ考ヘテ居リマス其ノ
計畫ト致シマシテハ大日本傷痍軍人會ヲシテ全國各道府縣ニ身上相
談所ヲ設ケシメマシテ傷痍軍人ノ生活問題、家庭問題或ハ職業問題
等各般ノ事柄ニ關シテ之ガ指導援助ヲ爲サシメルト共ニ更ニ國家ノ
保護施設ノ周知徹底及之ガ手續ノ補助等ニ付キマシテ活動セシメル
豫定デアリマス

尙傷痍軍人ノ子弟ノ育英ノ爲中等學校ノ在學者ニ對スル學資補助ノ
途ヲ開キマシテ各道府縣ニ之ガ所要經費ヲ補助致シマシテ其ノ實施
ニ當ラシメタイト存ジテ居リマス

以上ハ大體優遇ニ關スル事項デアリマシテ次ニ傷痍軍人ノ指導デア
リマスガ傷痍軍人ハ其名譽ニ誇ラズ亦國家ノ恩遇ニ忤レズ飽ク迄
自奮自勵再ビ君國ニ報スルヤウ指導教養スルコトハ極メテ肝要デア
ラウカト考ヘラレマス此ノ爲ニ大日本傷痍軍人會ヲ督勵致シマシテ
自治的ニ相互修養ニ勵マシムル考ヘデアリマスガ此ノ外適當ナ精神
指導講演モ必要カト存ジマシテ既ニ傷痍軍人中ノ先覺者デアル櫻井
忠溫少將外九名ノ講師ヲ委囑致シマシテ各陸海軍病院ニ巡回講演ヲ
願ヒマシタガ今後更ニ續行スル考ヘデアリマス
更ニ亦修養見學ノ實施、映畫フキルムノ作製、文藝ノ利用、印刷物
ノ作製頒布等各種ノ方法ヲ講ジマシテ傷痍軍人ノ精神作興ヲ期シタ
イト考ヘテ居リマス
次ニ一般國民ノ教化デアリマスガ一般國民ガ傷痍軍人ニ對シテ感謝
ノ念ヲ永ク持續シ傷痍軍人ガ生活ニ安ンジテ更ニ奉公報國シ得ル様
國民全體ガ支援スル如ク教化スル必要ガアルト存ジマス此ノ國民ノ

感謝ヲ實行ニ具現セシムル爲ニ各種ノ標識、ポスター、パンフレット等ノ作製頒布、講演會ノ開催、映畫フィルムノ作製、各種文藝ノ獎勵等凡ユル方途ヲ講ジマシテ其ノ實績ヲ擧ゲタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

更ニ國民精神總動員運動ノ一環トシテ國民感謝運動ヲ實施致シマシテ此ノ趣旨ヲ普及強調致シタイト考ヘテ居リマスカラ關係各省ニ於カレテモ御協力下サルヤウ御願ヒ致シマス

最後ニ傷痍軍人ニ對スル醫療保護並職業保護ニ付キマシテハ後刻業務局長カラ御話ガアル筈デアリマスガ傷兵保護院トシテハ本年慶ニ於テ全國各地ニ數十ヶ所ノ醫療保護施設及職業再教育施設ヲ設ケル豫定デアリマス此ノ施設ハ最モ迅速ニ其ノ實現ヲ期スル必要ガアルノデアリマスガ何分其ノ建築營繕ノ材料物資ニ就キマシテハ先刻來御話ノアツタ消費統制等ノ制限ニ依リマシテ之ヲ速カニ調達スルコトガ困難ト思ハレマスノテ關係各省ニ於カレマシテハ之ガ制限緩和

ノ例外的取扱ニ付特別ノ御配慮ガ願ヒタイノデアリマス何卒切ニ御
協力ヲ望ム次第デアリマス



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨
 銃後施設ニ關スル事項
 商工省 豐田文書課長

企總動二〇五號ノ十ノ一
 昭和十三年五月十九日
 企 畫 院

一 應召商業者ノ營業援護ニ關スル事項

應召商工業者ニ對シ其ノ營業ヲ援護シ家族ノ生活安定ヲ圖ルコトハ頗ル緊要ノコトデアリマスノテ當省ニ於テハ昨年八月不取敢商工次官ヨリ各地方長官宛ニ應召者ノ待遇及其ノ家族ノ扶助等ノ對策ニ遺憾無キ様通牒スルト共ニ商工會議所其ノ他當省ノ監督下ニ在ル當業者又ハ其ノ團體ニ對シテモ夫々所管ノ局長ヨリ同趣旨ノ通牒ヲ致シマシタ而シテ右ノ通牒ニ基キ各方面ニ於テ夫々適當ナル措置ガ講ゼラレマシタガ更ニ之ヲ徹底セシメル爲ニハ産業奉仕委員ノ様ナ制度ヲ必要ト考ヘ同年十二月各地方長官宛其ノ設置方ヲ勸奨シ之ト併セテ日本商工會議所、商業組合中央會、工業組合

中央會、輸出組合中央會、日本工業協會、日本實業組合聯合會、全日本商店會聯盟ノ代表者ヲ招致シテ地方廳ト協力ノ上速ニ産業奉仕委員制度ノ實現ヲ圖ル様協議ヲ重ネマシタガ昭和十三年度ニ於テハ之ニ必要ナ經費トシテ約六十七萬圓ヲ計上シ其ノ促進ヲ圖ルコトトシマシタ之ハ道府縣ニ設置スル營業援護委員會費、商業奉仕委員手當並ニ其ノ事務所費ニ對スル補助等デアリマシテ商工省ニモ近ク應召商業者營業援護委員會ヲ設置シ彼之相俟テ商業者ノ銃護援助ニ遺憾ナキヲ期スルコトト致シマシタ



國家總動員會議ニ於ケル各廳說明要旨

銃後施設ニ關スル事項

厚生省 持永傷兵保護院業務局長

企總動一〇一五號ノ十二ノ口

昭和十三年五月十九日

企 畫 院

傷兵保護ニ關スル事項

私ヨリハ只今説明ノアリマシタ事項以外ノ諸保護事業ニ付テ御説明致シタイト存ジマス

傷兵軍人保護對策ノ要諦ハ唯今ノ説明ニモアリマシタ通傷兵軍人ヲシテ郷ニ在ツテ國家ノ恩遇ニ忤レズ名譽ト矜持トヲ保持シツツ日本國民タルノ本分ヲ自覺シテ更ニ君國ニ報ズルニ遺憾ナカラシムルニアリト考ヘルノデアリマシテ夫ガ爲ニハ傷兵軍人ノ心身ノ恢復ニ努ムルト共ニ之ニ適業ヲ確保シテ社會的經濟的ニ自主獨立ノ生活ヲ營

マシムル爲ノ各般ノ措置ヲ講ズルコトガ極メテ緊要デアリマス
此ノ趣旨ニ依リマシテ只今説明ノアリマシタ各種ノ優遇及精神的指
導ト共ニ傷痍軍人ノ療養ト職業保護ニ關シテ各種ノ施設ヲ致シ物心
兩方面ヨリ傷痍軍人保護ノ目的ヲ遺憾ナク達成スルコトヲ期シテ居
ル次第デアリマス

先ヅ療養ニ關スル施設デアリマスガ一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレ陸海
軍病院ヨリ退院シタル後ニ於ケル傷痍ノ再發或ハ結核若ハ精神障害
等ニ備ヘテ醫療保護ノ措置ヲ講ズルノ必要ヲ認メマシテ既ニ昨年度
ヨリ依託療養ノ方法ニ依リ其ノ保護ヲ開始シテ來タデアリマスガ
本年度ヨリハ此種療養ノ施設ヲ國營ヲ以テ特設シテ傷痍軍人ヲシテ
充分ニ療養セシムルコトト相成リマシタ
其ノ療養施設ニ付テ申上ゲマスナラバ第一ニ戰傷病ニ因リ精神ニ障
害ヲ受ケタ軍人ノ爲ニ定員大體百名ノ精神保養所ヲ設ケテ夫等ノ人
人ヲシテ永年治療セシムル考デアリマス

第二ニハ一種以上ノ兵役ヲ免除サレテ陸海軍病院ヨリ退院シタル後ニ於テ季節的ニ傷痛ガ再發スル等ノ理由ニ因リ尙保養ヲ要スル人ノ爲ニ物療科ヲ伴ツタ溫泉保養所（收容定員百名）ヲ全國テ十ヶ所建設スル計畫デアリマス

第三ニハ結核又ハ腦膜炎ニ罹ツタ傷痍軍人ヲシテ長期間療養セシメ其ノ根治ニ努メル爲ニ定員約五百名ノ結核療養所ヲ全國ニ二十數ヶ所建設スル計畫デアリマス

以上ノ施設ノ中結核療養所ニ付テハ既ニ最モ緊要ト認ムル十八府縣ニ付敷地ノ選定ニ着手致シマシタノテ決定次第直ニ建築ニ着手シ一部ハ本年內ヨリ收容ヲ開始シ得ル様竣工セシメタイト考ヘテ居リマス

第四ニハ以上ノ施設完成ニ至ル迄ノ間及施設完成後モ之ヲ收容シ切レナイモノ又ハ收容セズシテ療養セシムルヲ適當トスル特別ノ理由アルモノニ付テハ委任療養ノ方法ニ依リ即最寄ノ公私立病院等ヘノ

委託療養又ハ温泉旅館等ノ借上ニヨル委託療養ヲ實施セシメルコトニナツテキルノデアリマシテ過日其ノ實施方法ニ關シ詳細通牒スル所ガアリマシタ

其ノ他手押車寢臺等ノ介護用具ヲ要スル者ニハ之ヲ支給シ又右ニ述ベマシタ諸施設ヲ利用セザル一般傷痍軍人ニ對シテモ原傷病ニ起因スル傷病發生ノ場合ハ陸海軍病院ニ於テ治療ヲ受クル以外ニ隨時ニ其ノ現住地ニ於テ簡單ナル醫療ヲ受ケ得シムルコトニナツテ居リマ

ス
以上ノ場合ニ於キマシテハ傷痍軍人ノ家族關係ニ考慮ヲ拂ヒ出來得ル限り住居地ニ近イ所テ加療スルコトガ出來マヌ様ニ施設ノ配置ニ留意シ又家族ノ近隣住居料若ハ見舞旅費ノ助成ノ途モ設ケテアリマ

ス
次ニ傷痍軍人ノ職業保護ノ施設デアリマスガ傷痍軍人ヲシテ身心ノ恢復ニ加ヘテ更ニ職業的能力ヲ恢復獲得セシメ前途ニ希望ト光明ヲ

把持シツツ夫々ノ志望環境ニ應ジテ其ノ能力ヲ充分ニ活用シ得ルヤ
ウ適業ヲ確保スルコトハ獨リ傷痍軍人ノ幸福ノミナラズ國家ノ人的
資源ノ活用上ヨリ見ルモ極メテ緊要ナル事項ト考ヘラレルノデアリ
マシテ傷痍軍人ノ職業ノ問題ニ關シテハ此ノ觀點ヨリ職業指導、職
業輔導、就職援護及就職後ノ輔導等ノ各過程ヲ通ジテ一貫シタル周
到ナル措置ヲ講ズル要アルハ勿論傷痍軍人ニ適職ヲ確保スル法制ノ
可否ニ付テハ充分研究ノ必要ガアルト考ヘマス

個々ノ施設ニ付テ御説明申上ゲマスレバ第一ニ職業指導デアリマス
ガ陸海軍病院在院ノ傷病兵ノ最大ノ關心事ハ職業ノ問題デアリマス
ノテ在院中カラ之等ノ者ニ對シテ職業ノ相談ニ應ジテ適切ナル將來
ノ職業上ノ指針ヲ與ヘテ其ノ不安ヲ除クノ緊要ナルヲ認メ既ニ十二
年度ヨリ職業指導ニ關シ専門的知識經驗ヲ有スル者約八十名ニ傷痍
軍人職業顧問ヲ依囑シテ病院ヲ巡回セシメ傷痍軍人ハ出來ルダケ原
職ニ復歸セシムル方針ヲ採リ各種ノ手段ヲ講ズルモ原職ニ復歸シ得

ナイ者及原職ノナカツタ者ハ他ノ適職ニ就カシムル方針ノ下ニ職業指導ヲ實施セシメテ參ツタノデアリマスガ本年度ヨリハ更ニ専務者ヲ各府縣ニ置キ一層本事業ノ徹底ヲ期スル考デアリマス

第二ニ職業輔導ノ施設ト致シマシテハ國テ二ヶ所ノ職業再教育所ヲ直營シ主トシテ傷痍重クシテ職業ニ就ク爲職業再教育ヲ施ス必要アリト認メラルル者ニ對シテ一ヶ所役二百名二ヶ年程度ノ高度ノ職業再教育ヲ施ス計畫デアリマス

尙本施設ニハ義肢ノ製作、配給機關ヲ附設スル外本施設ヲ中心トシテ一年一ヶ所五十名位ノ者ニ付テ委託ノ方法ニヨリ専門學校程度ノ職業再教育ヲモ受ケ得シムル途モ設ケテアリマス

又財團法人啓成社ニ補助シテ其ノ施設ヲ擴張セシメ約百名ニ對シ上流致シマシタト同様程度ノ職業再教育ヲ行ハシメル考デアリマス

此ノ他道府縣ニ補助シテ主トシテ既存ノ學校、試験場、工場、商店等ヘノ委託教育ノ方法ニ依リ又必要アル場合ハ道府縣ニ特別ノ施設

ヲモ設ケサシメテ國ノ再教育施設完成迄ノ間及特ニ輕易ノ再教育ヲ
要スル者ニ對シテ短期ノ職業再教育ヲ行ハシメル計畫デアリマス
第三ニハ除役退院後自營業ヲ營ム者ニシテ生業資金ヲ必要トスルモ
ノニハ資金ヲ給貸與スル者デアリマス尙此ノ生業助成ノ事業ハ別ニ
傷痍軍人保護事業後援團體ヲ作りマシテ此ノ團體ニヤラセル積リテ
アリマス

第四ハ就職援護デアリマスガ就職促進ノ施設ト致シマシテ傷痍軍人
ヲ元ノ職場又ハ新シイ職場ニ就カシムル爲民間工場等ニ於テ作業設
備ヲ傷痍疾患ニ適應スル如ク改善スルコトヲ助成獎勵致ス者デアリ
マス

就職斡旋ニ付テハ職業紹介機關ノ活動ヲ促進シ能フ限り效果ヲ擧ゲ
シムルコトヲ期シテ居リマス
以上傷痍軍人ノ療養及職業保護ニ關スル施設ノ大要ヲ御説明申上ゲ
マシタガ要ハ傷痍軍人ヲシテ恩給ニ依ツテ徒食スルコトナク生産力

アル個人トシテ自ラモ生ヲ樂ミ國家社會ニモ貢獻セシムルニアルヲ
デアリマシテ從ツテ傷痍軍人ノ就職ノ問題ガ當面ノ重大問題デア
ト考ヘマス

傷痍軍人ニ對シテ如何ニ職業指導ヲ爲シ職業再教育ヲ施シ職業意識
ヲ盛ナラシメマシテモ之ニ働ク職場ガ與ヘラレナケレバ畫龍點睛ヲ
缺クモノト言ハナケレバナリマセン

此ノ傷痍軍人ニ對スル職業確保ノ問題ニ付テハ官民相呼應シテ最善ヲ盡サ
ナケレバナラナイト考ヘルノデアリマスガ民間側ノ適切ナル協力ヲ
求メルト同時ニ國家公共團體ガ傷痍軍人ヲ原職復帰セシムル外一定
數ノ傷痍軍人ヲ必ズ優先的ニ使用シテ民間ニ其ノ範ヲ示スコトガ先
ヅ必要デハナイカト考ヘマス

此ノ問題ハ前ニ説明ノアリマシタ優遇ノ問題ト同様各官廳相一致シ
テ明確ナル形ノ下ニ善處スベキ重要事項ト考ヘラレマスノデ企畫院
ニ於テモ御研究御協力ヲ御願ヒ致シタイト考ヘマス

又民間ノ自發的協力ハ内外ノ經驗ニ徴スレバ年月ヲ經ルニ從ツテ弛
緩スル傾向デアリマス、
一方傷痍軍人ガ多數ニナツテ來レバ傷痍軍人ノ分布ガ地域的ニ又ハ
職業別ニ不公平トナリ或ハ傷痍軍人ノ恒久的の使用ガ確保サレナイ惧
ガアリマスノテ傷痍軍人ヲ各職業ニ公平ニ割當テ且ツ其ノ恒久的の使
用ヲ確實ニスルタメノ義務的立法ヲモ老究ノ必要ガアルノテハナイ
カト老ヘマス



國家總動員會議ニ於ケル各廳説明要旨
 銃後施設ニ關スル事項
 厚生省 福本軍事扶助課長

企總動一〇一五號十二ノ八
 昭和十三年五月十九日
 企畫院

軍事援護事業ノ概要ニ就テ

戰歿軍人ノ遺族及出征軍人ノ家族ノ援護ハ國ヲ舉ゲテノ協力ニ依テ
 幸ニ今日迄圓滑ニ行ハレテ來テキマスガ時局ノ前途ハ尙遽ニ豫斷ヲ
 許サズ銃後ノ援護ハ愈々其ノ重要性ヲ加ヘテ居リマス。政府ニ於テ
 ハ世局ノ實情ニ鑑ミ諸種ノ緊要ナル銃後對策ヲ樹立シ其ノ實施ニ努
 カシツツアリマス。而シテ之等銃後對策中其ノ主要ナルモノハ
 一、軍事扶助法ノ施行ニ關スル事項
 二、軍事援護事業ノ助成
 三、歸郷軍人ニ對スル援護事業
 四、軍事援護相談機關設置ノ助成

五戰歿軍人遺族保護對策

等デアリマシテ之等ニ付概略御説明申上グレバ

第一、軍事扶助法ノ施行

軍事扶助ハ申スマデモナク兵役ノ大任ニ服スル者ヲシテ後願ノ憂ナク安ンジテ其ノ責務ヲ完ウセシムル趣旨ヲ以テ制定サレテ居ルノデアリマシテ入營又ハ應召、傷病若ハ死亡ノ爲生活スルコト困難ナル者ニ對シ扶助ヲ行フノデアリマス。

今次事變發生當初ニ於テハ一時ニ極メテ多數ノ家族ヲ扶助致シタ關係上家族ノ世帯調査ヤ扶助ノ監督等ニ對シテモ充分手ノ届キカネタ點モアルコトト存ジマスガ之ハ寔ニ已ムヲ得ナカツタ次第デアリマス。然シナガラ今日ニ於テハ扶助事務モ一應落付イタ實情デアリマスカラ今後ハ扶助ノ實情ヲ詳細ニ再檢討シテ一層扶助ヲ適正ナラシメ苟クモ扶助ガ亂ニ流レ又ハ扶助ニ漏レル者ガアルト謂フガ如キコトナカラシムルヤウ十分御考慮ヲ願